

事項九 広東軍政府関係

四九〇 一月二十六日 在広東天羽総領事ヨリ
松井外務大臣宛 (電報)

国民党大会ニ於テカラハンノ祝電ニ対スル返
電決議並ビニーレーニンノ死去通告ニ対スル弔
電決議ノ件

第二五号

(一月二十七日接受)

一月十五日「カラハン」カラ国民党大会ニ祝電ヲ寄越シタ
カラ二十四日大会ハ返電ヲ決議シタ又二十五日広東駐在
「ソヴィエット」代表「ボロジン」ハ孫文ニ「レーニン」ノ
死去ヲ正式ニ通告シタカラ孫文ハ各官厅ニ同日ヨリ三日間
半旗ヲ掲クル様命令シ大会ハ弔電ヲ發スコトヲ決議シタ他
方同日同会ハ英國労働党内閣成立ニ対スル祝電ヲ決議シタ
北京ニ転電

四九一 一月三十一日 在広東天羽総領事ヨリ
松井外務大臣宛 (電報)

国民党全国代表會議ニ於ケル孫文ノ演説並ビ
二諸決議ニツキ報告ノ件

第三五号

四九二 一月三十一日 在広東天羽総領事ヨリ
松井外務大臣宛 (電報)

国民党全国代表會議ノ内容ニツキ観測ノ件

(二月二日接受)

往電第三四号ニ関シ

観測スルニ(一)會議ハ各地ノ代表者ヲ集メ熱心ナル討議ヲ見
タルモ一般世人ノ深甚ナル感情ヲ惹カサルモノノ如シ(二)會
議前ニ於テハ謝英伯、馮自由ノ如キ所謂キュウチョウ派ハ大会

ノ準備ニ活躍シタルモ會議ニ於テハ汪兆銘、胡漢民、廖仲
愷等所謂元老派牛耳ヲ執リタリ惟フニ元老派ハ最近広東ニ
於テ勢力落チ政府要部ハ少壮派及資本派ノ為ニ占拠セラレ

タルヲ以テ国民党大会ニ依リ其ノ恢復ヲ計ラントシタルモ
ノノ如シ(三)中央執行委員会ヲ初メ宣言文中対内外政策ノ綱

領ハ孫文ノ持論ニ従ヒ甚シク労農露西亞ニカブレタル感ア
ルニ加ヘ會議中「ボロジン」ノ演説「レーニン」死去ニ対
スル弔意休会アリタル為世上或ハ大会ノ費用ハ露西亞ノ支
出トノ風評ヲ産ムニ至リ斯ノ如ク広東政府ノ労農露西亞接
近ハ漸ク露骨ナラントス(四)大会ハ国民政府ノ必要ヲ決議セ

シモ其ノ具体的成案ノ決定ヲ為サス而シテ北伐ハ大会トハ

第三四号 (二月一日接受)

国民党全国代表會議ハ一月二十日当地ニ開会三十日閉会シ
タ來会者ハ支那各省ヲ初メ海外ノ代表約百六十名開会席頭

孫文ハ『中国ノ現状及国民党改組問題』ト題シテ熱烈ナ演
説ヲシタ會議中國国民党宣言案ヲ可決シタカ該宣言ハ先ツ中
國ノ現状カラ説キテ所謂立憲派、連省自治派、和平會議派
及承認政府派等ヲ排シ次テ国民党ノ主義ニ及ヒ所謂三民主
義則チ民族主義、民權主義、民生主義ヲ高唱シ之ニ基ク國
民党ノ政綱ヲ羅列セルカ要スルニ對外政策ニ於テハ平等主
義ヲ主張シ對内政策ニ於テハ勤儉主義ニ基キテ諸般ノ制度
改革ヲ叫ンテ居ル夫レカラ国民政府組織必要案国民党章程
等決議シタカ其ノ要点ハ国民党ヲ改革シ一致革命ノ成功ヲ
期シ同党ヲ以テ國家ヲ建設シ支那ノ一新紀元ヲ開クヘシト
言フノテ国民党ヲ本位トスル政府ヲ組織シ有力ナ黨員カラ
成ル中央執行委員会ヲ設ケ重要ナル政策ハ右委員会ニ於テ
実行セントシテ居ル尚閩稅問題ニ關スル決議モノタ
在支公使ヘ転電シ上海、奉天、天津、台灣、汕頭ヘ郵送セリ

在支公使ヘ転電シ上海、奉天、天津、台灣、汕頭ヘ郵送セリ

西ニ向ヘリ

(一)国民政府建設ニ付テハ曩ニ葉恭緯力案ヲ持シテ張作霖及江

盧永祥ト諮詢レルモノ右ハ孫文ヲ中心トスルモノナルヲ以テ両者ノ賛認ヲ得ス目下停頓ノ模様（井上謙吉談話）

（三）目下大本營ニ於テハ財政統一會議ヲ開キ極力財政整理ニ努メ雲南軍諸将モ表面収入機関吐出ヲ声明スルモ実行スルニ至ラス往電第四〇号短期（シユーピョウ）ニ付テハ市内到ル處兵士ト商人トノ間ニ衝突ヲ起シ商人ハ正月休後引続キ開店セサル為政府ハ八日先ニ發行シタル強請通用ノ命令ヲ取消シ主ナル商人ニ対シ右（シユーピョウ）応分ノ引受ヲ懇請スルコトニ決セリ

（四）之ヲ要スルニ最近広東政府ノ政策ハ内部ヲ堅メントスルモノニシテ東江平定及財政統一ニ力ヲ致スモノノ如シ

北京、奉天ヘ転電シ天津、上海、九江、汕頭、杭州、福州、雲南及台灣總督ヘ暗送セリ

（四九四）二月二十一日 在広東天羽總領事ヨリ
松井外務大臣宛（電報）

国民党ノ共産化ニ関スル觀察ニツキ報告ノ件

（二月二十二日接受）

往電第三五号並機密第二八号拙信ニ關シ
国民党ノ共産化ニ関スル報道ハ海外ニ相當ノ反響ヲ与ヘタルモノノ如ク當地国民党ニ達シタル報告ニ依レハ暹羅政府

（四九五）三月七日 在広東天羽總領事ヨリ
松井外務大臣宛（電報）

三角同盟解体ノ風説ニ関スル孫文ノ意向ニツキ報告ノ件

（三月八日接受）
第六〇号

張、段兩派ノ孫派ニ対スル期待ノ如何ニアレ孫派ハ直隸派对抗ノ為メニ久シク所謂三角同盟ノ成立ニ画策シ之ヲ宣伝シテ反直運動ノ促進ト内部ノ士氣振興トニ利用シ来リシカ最近種々ノ原因ノ為メニ張段兩派ノ孫文ニ対スル關係著シク阻隔シ大本營要人ノ内ニハ三角同盟ハ解体セリト迄亥タルモノアルニ加ヘ先日大本營ニハ吳佩孚派ハ張段兩派ニ秋波ヲ送リ之ト好感ヲ繋ギ一拳廣東征伐ヲ起サントスル計画アリトノ報道サヘ伝ハリタルカ故ニ孫文ハ誕生祝賀ノ名目ノ下ニ三月五日當地發郭泰祺ヲ天津ニ八日香港發「比利・オー」「チャイナ」号ニテ上海経由伍朝枢ヲ奉天ニ派遣スルコトニ決定セリ

北京、奉天、天津、上海ニ転電セリ

（四九六）三月二十七日 在広東天羽總領事ヨリ
松井外務大臣宛（電報）

ツツアル旨報告ノ件

九 広東軍政府関係 四九五 四九六 四九七

孫文側ノ東江攻撃ヲ繞ル情勢ニ関シ申進ノ件

（三月二十八日接受）
第七三号

三月二十五日停戰二十六日李烈鈞ノ内話ニ拠レハ東江方面ハ三月二十七日總攻擊スルコトニ予テ命令ハ下シ右翼ニハ雲南軍左翼ニハ湖南軍ヲ配置シ四月一日ヨリ取立ツル廣東家屋家賃前借金約八十萬元ヲ全部軍費ニ当ツル筈ナルカ偶々臧致平二十二日漳州占領ノ旨同地孫派高級參謀范熙續ヨリ電報アリタル故目下之ト策動協議中又北江方面テハ吳佩孚ノ馬済、蔡成勲、（方本仁）趙恒惕、沈鴻英等ニ対スル廣東攻擊督促命令南雄ニ於テ孫派ノ手ニ入りタル上高鳳桂軍ハ北方ニ走リ同地方ノ雲南軍ニ対シテモ盛ニ北付ヲ勧誘セラレ居ルヲ以テ目下警戒中ナル趣ナリ臧致平トノ策應ハ勿論東江ノ攻撃モ容易クハ拂ラサルヘキモ久シク平静ナリシ廣東ノ戰局モ將ニ動カムトスルノ兆アリ

北京ヘ転電シ長沙、漢口、廈門、汕頭、福州ニ暗送ス

（四九七）七月二十二日 在広東天羽總領事ヨリ
幣原外務大臣宛（電報）

広東政府軍ト雲南軍トノ反日益々露骨ニナリ

ハ国民党ニ対スル取締ヲ厳重ニシ「スマトラ」ニテハ同党紙閉鎖セラレ新嘉坡ニテハ同党週刊没収セラレ澳門ニテハ支部長家宅捜査ヲ受ケ同党週刊及印刷機没収セラレ他方海外華僑ヨリ続々共産化反対ノ通電アリタル趣ノ処予テ委嘱セル某国民党員ノ内報ニ依レハ「ボロジン」ヨリ大會議前ニ十八万元会議費用トシテ五万元（二万元ハ右内報者経営銀行取扱）ヲ支出シタル由ニテ「ボロジン」ハ今猶ホ当地ニ在リテ宣伝ニ從事ス乍然国民党ノ共産党化ニ対シテハ党内ニモ異論アリ則チ共産派ハ李書城、陳獨秀、譚平山、仲愷、戴天仇等ヲ中心トシ汪兆銘、胡漢民、鄒魯等ノ元老派之ヲ支持シ少壯及資本派ハ之ニ反対ス又馮自由ノ如キハ平素ノ主張ニ鑑ミレハ方ニ共産派ニ属スヘキモノナルモ中央執行委員ノ選定ニ漏レタル腹癪セノ為カ（脱）如斯国民党ハ今ヤ共産党問題ヲ中心トシテ二派ニ分カルルモ右ハ必シモ主義上ノ相違ニアラスシテ権力争奪ヲ目的トスル元老派対資本派ノ内訌ヲ繰返シ居ルモノトモ観察セラル

在支公使ヘ転電シ奉天、上海、天津、汕頭及香港ヘ暗号ノ儘郵送セリ

(七月二十三日接受)

第一六四号

孫派ノ勢力ハ事実久シク雲南軍其他ノ客軍ニ依リテ支持セ

ラレ從テ其重ナル収入機関ハ亦之ニ依リ占領セラレ居タル
カ為メニ広東政府部内要人並ニ広東軍ノ客軍ニ対スル不平
ハ自然漸次醸釀シ来リタルカ五月中旬許崇智帰粵広東軍ヲ
團結シテ之カ總司令トナリ他方公安局長吳鉄城ハ近頃勃興
シ來レル商団軍ヲ懷柔シ許崇智ニ策応シテ客軍ヲ牽制セん
トシ以来広東軍ト客軍トノ反目ハ益々露骨トナリ其結果雲

南軍湖南軍ト共ニ休戦氣分ヲ示スルニ至レリ然ルニ最近偶

々九江ニ於ケル同地商団軍ト雲南軍トノ衝突事件アリ（引

続當方ヨリ打電ノ筈）広東商団軍ハ九江商団軍応援ノ為メ

同地ニ向ヒ又北江方面ニ於テハ許崇智ト雲南軍トノ衝突ア

リタリ最近大本營ハ當地新聞社ニ對シ參謀署發表以外ノ戰

報及東江ニ於テ從軍中ノ軍官學校教官露国人ノ行動ニ関ス

ル報道ノ掲載方ヲ禁止セリ

公使ニ転電シ奉天、上海、雲南、汕頭へ暗送セリ

四九八 八月二日 在広東天羽總領事ヨリ
幣原外務大臣宛（電報）

国民党中央執行委員会ヨリ北京反帝国主義大

陳炯明トノ和約ハ不可能ナル旨ノ孫文談話二

ツキ報告ノ件

第一八五号

(八月七日接受)

往電第一八三号孫文ト會見ノ皮切リトシテ往電第一四三号
段祺瑞ノ言伝ヲ伝ヘタルニ孫文ハ陳炯明カ真ニ和議ヲ欲ス
ルナラハ如何ナル条件ヲモ甘受スヘキモ最近林虎及洪兆麟
ハ直接吳佩孚ノ指揮ヲ受居ルカ故ニ陳炯明ト和約スルモ広
東ノ和平ヲ治メ難ク遺憾ナカラ戰爭続行ノ外無シト挨拶セ
リ御参考迄四九九 八月六日 在広東天羽總領事ヨリ
幣原外務大臣宛（電報）

同盟ノ成立ニ對シ激励文發送ノ件

第一八一号

(八月三日接受)

國民党中央執行委員会ハ北京反帝国主義大同盟ニ對シ支那
全國ヲ糾合シテ列國ノ政治及經濟的帝國主義ヲ排斥スルハ
民黨年來ノ主張テアルカラ今回反帝國主義大同盟ノ成立セ
ルハ同慶ニ堪ヘサル処今後協力奮闘其目的ヲ達センコトヲ
期ストノ激励的書翰ヲ發シタ

北京、上海へ転電セリ

在支公使へ転電シ上海、奉天、福州、汕頭、雲南、台灣總
督へ暗送セリ五〇〇 八月七日 在広東天羽總領事ヨリ
幣原外務大臣宛（電報）

國民党中央執行委員会ノ決議ニ基ク広東省長

ノ政府關係學校教師ノ入党命令ニ關スル件

第一八六号

(Sander Weiler) ヨリ軍政部發給護照ヲ以テ広東ニ入港
スル筈ノ「ハブ」号積載同商會發送武器引取手續ヲ為シ來
タレル（不明、脱）護照及「マニフェスト」ニ不備ナル点
アリ許可ヲ留保シテ稅關監督ニ照会シタルニ稅關監督ハ一
応独逸領事ニ照会ノ結果何分ノ命令スヘク夫迄兎モ角武器
ヲ抑留スル様訓達シ来タレル趣ナリ、「ハブ」号ハ九日午
前中ニハ広東ニ入港セス、「ワイラー」商會ハ稅關ニ對シ
右ハ廣東商團軍ノ注文ニ係ル旨申立テタル趣ナルモ尙内查
中、不取敢五〇一 八月九日 在広東天羽總領事ヨリ
幣原外務大臣宛（電報）

廣東商團軍發注ノハブ号積載武器抑留申ナル

告ノ件

第一九三号

往電第一九〇号ニ關シ

五〇二 八月十一日 在広東天羽總領事ヨリ
幣原外務大臣宛（電報）

ハブ号積載武器ニ關スル稅關長内話ニツキ報

第一九〇号
（八月十日接受）
往電第一七九号ニ關シ

八日税關長ハ同日当地獨逸商人「サンダー・ワイラ」

九 広東軍政府關係 五〇〇 五〇一 五〇一

五一〇

号中発送人ヲ独逸「サンダー・ビラー」商會トセシハ誤) 荷受人ハ当地独逸商人「サンダー・ビラー」荷物引受申請者ハ商團軍團長「陳廉伯」内容ハ「ミニフェスト」ニハ單一 safety ammunition and arms 1129 packages トアルモ護照ニハ小銃四千八百五十挺付属弾丸百十五万発「モーゼル」拳銃四千三百三十一挺付属弾丸四百六万発其他大小拳銃六百六十挺付属弾丸百十六万四千二百発合計千百二十九箱ト記入シアリ其際税関長ノ内話ニ依レハ(一字不明)税関監督(ハ税関長脱?)ニ対シ右武器ノ荷揚ヲ禁シ同船ヲ港外ニ移スヘキ旨ヲ命令シ税関長ハ該武器ノ入レアル船艤ヲ封印シタルモ港外ニ移スコトハ權限外ナリトテ之ヲ拒絶シタル趣ナリ然ルニ他方十日陳友仁ハ罷業問題ヲ兼ネテ同

総領事ヲ訪ヒ該武器ハ商團軍ト雲南軍第二軍長范石生トカ独逸ヨリ注文シタル独逸品ナルカ若シ之等武器カ商團軍又ハ雲南軍ノ手ニ入ラハ孫文ニ対スル由々シキ脅威タルヘキカ故ニ同船ノ監視及荷揚防止ノ為メ大本營ヨリ現場ニ監視船ヲ派遣スヘキニ付英國軍艦ノ共助ヲ得タシト申出タルカ

同總領事ハ斯ノ如キ目的ノ為メニ英國軍艦ヲ派遣スルコトハ承諾シ難キモ若シ広東政府ニ於テ真ニ之カ荷揚ヲ防止セハ雲南軍ノ手ニ入ラハ孫文ニ対スル由々シキ脅威タルヘキカ故ニ同船ノ監視及荷揚防止ノ為メ大本營ヨリ現場ニ監視船ヲ派遣スヘキニ付英國軍艦ノ共助ヲ得タシト申出タルカ

タルニ孫文ハ其ノ際ハ全市ノ労働者ヲ武装シテ是レニ対抗スヘシト応酬シタルカ故ニ同日広東各地商團軍代表百三十名ノ会合ヲ催フシ其ノ結果政府ニ於テ商團軍所屬ノ武器ヲ押収セハ是レト開戦スヘキ旨省長ニ申入レタルカ未タ何等ノ回答ニ接セサル由

政府ハ十二日黄埔ニ於テ軍艦監視ノ下ニ「ハヴ」号ヨリ全部ノ武器ヲ陸揚ケ軍官学校ニ運ヒ入レ尚同船ノ出航ヲ禁シタルカ十四日他用ニテ交渉員ニ会見ノ折傳秉常ハ右ハ單ニ問題決定迄保管スル心算ニテ同船ハ申告書ニ虚偽ノ申出アリタル為出帆ヲ禁シタリト云ヘリ

十二日陳友仁罷業問題ヲ兼ネテ來訪ノ際商團軍團長陳廉伯ハ陳炯明ト通シ孫文政府顛覆ノ陰謀ヲ為スモノナリト罵倒シタルカ陳廉伯ハ身辺ノ危険ヲ恐レ商團軍團長ヲ辭職シテ十一日香港ニ逃亡セリ

広東商團軍ハ十三日全省レンドウ総会ノ成立ト陳廉伯會長就任ノ祝賀會開催ノ筈ナリシカ陳ノ不在ト政府カ全省レンドウ総会ノ設立ヲ承認セサリシ為单ニ示威運動ニ終レリ然リナカラ

英國總領事ハ予テノ方針ニ従ヒ(本年一月十四日付機密第六号拙信参照)何トカ右武器(脱)モ本官ト会談ノ際矢張リ之カ輸入ヲ阻止シタキ希望ヲ洩セリ尚英仏總領事ノ要求モアリ之ヨリ領事団會議ヲ開催討議ノ筈

タル趣ナリ

英國總領事ハ予テノ方針ニ従ヒ(本年一月十四日付機密第六号拙信参照)何トカ右武器(脱)モ本官ト会談ノ際矢張リ之カ輸入ヲ阻止シタキ希望ヲ洩セリ尚英仏總領事ノ要求モアリ之ヨリ領事団會議ヲ開催討議ノ筈

公使ヘ転電セリ

五〇三 八月十五日 在広東天羽總領事ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)
ハブ号積載武器ニ閣スル広東政府ト商團側ト

ノ折衝経過ニツキ報告ノ件

第一九九号

(八月十六日接受)
往電第一九六号ニ閲シ

十四日陳廉仲、陳廉伯ノ代理トシテ領事団ニ対スル援助方陳情ノ為來訪ノ折内話スル處ニ依レハ十二日商團軍約二千

最近政府側ニ於テハ陳商團軍團長カ更迭シ且商團軍ノ自衛ニ必要ナル程度ノ武器ナラハ是レヲ引渡サントスル態度ヲ暗示スルニ至リタルカ確力ナル筋ヨリノ聞込ミニ依レハ同船積込武器ハ往電第一九三号護照記載數量ノ約倍額以上ノ由ニテ又雲南軍方面ヨリ出テタル情報ニ依レハ小銃八千同弾丸八十万発、大砲二門、同弾丸八百発、機関銃二十挺、同弾丸二万発、拳銃一千挺、同弾丸二十万発、全買入価格七十二万元其中小銃三千、大砲二門、機関銃二十挺、拳銃八百挺及各其ノ相当弾丸(価格三十六万四千元)ハ雲南軍ノ註文ニ係ルモノノ由ナリ前記陳廉仲モ「ハヴ」号ニハ商團軍註文數量以外ノ武器輻載スルコトヲ否認セス又商團軍ハ既ニ買入武器ノ価格ノ一部ヲ支払ヘリト云ヘリ
在支公使ヘ転電セリ

五〇四 八月二十日 在広東天羽總領事ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)
孫文ノ商團軍ニ対スル態度ニ閣シ申進ノ件

同日在広東天羽總領事幣原外務大臣宛電報第一〇八号
孫文ノ商團軍側質問ニ対スル回答ノ件

(八月二十一日接受)

往電第二〇四号ニ関シ

其後政府ハ商團軍ニ関スル一切ノ印刷物ノ頒布及新聞記事ヲ禁止シ市内ニハ軍隊ヲ増派シテ嚴重ナル警戒ヲ加ヘタル為數日前商團軍幹部ハ仏山ニ移リタルカ十九日孫文ハ代表ヲ商團本部ニ派シテ往電第一九九号商團軍ノ質問ニ対シ別電第二〇八号公文ヲ交付シタル上歩兵銃ハ廣東兵工廠壳価ヲ標準トシテ一挺百六十元ノ値ニテ引渡ス可ク又若シ既ニ代価（一挺百元）支払ノ証拠ヲ有スルモノハ更ニ六十元ノ追徴支払ニテ引渡スヘキ旨回答シタルモ機関銃及拳銃ニハ何等言及セス商團軍ハ目下対策密議中ナルカ現在武器弾薬ノ關係上廣東ニ於テハ政府ト戰フコトハ困難ナルヘク左リトテ政府ノ嚴重ナル圧迫モアルヲ以テ罷市モ却々困難ナル模様ナルニ依リ地方商團及鄉團軍ヨリ事ヲ起サシメントスルモノノ如シ

公使ヘ転電
(別電)
八月二十日在廣東天羽總領事発幣原外務大臣宛電報第二〇八号
孫文ノ商團軍側質問ニ対スル回答ノ件
第二〇八号
(八月二十一日接受)

ノル手段ヲ以テ罷市ノ防止ニ力メタルモ二十四日一部二十五日殆ント全部ノ商家ハ休業セリ仏山始メ数ヶノ地方都市ハ已ニ二十二日ヨリ罷市ヲ開始セリ目下商團軍ヲ指揮スルモノハ仏山ニアル副團長陳恭受ナリ
公使ヘ転電セリ

(付記)

広東「ハブ」号事件顛末
(十三、八、二六)

一、諾威船「ハヴ」号ハ廣東ノ雲南軍及商團軍カ独逸ニ註文シタル武器ヲ白耳義國「アンベルス」港ヨリ積載シ大正十三年八月十日廣東ニ入港セリ
二、直ニ廣東税關長ハ該武器ノ入レアル船倉ヲ封印シタリ
三、十一日対支武器禁輸協定參加國領事會議ノ結果（白耳義ハ廣東ニ代表者ヲ有セス又諾威並独逸ハ大正八年対支武器禁輸協定未加入國ナリ）同領事會議ヨリ北京關係國公使團ニ對シ政府又ハ他ノ「パーティ」カ該武器ヲ強奪スル場合又ハ關係者間ノ協定成立シ政府ノ護照発給ノ下ニ該武器ノ陸揚ヲナス場合之ニ干渉スル為メ外國軍艦ノ助力ヲ求メ得ヘキヤ否ヤ質問シタリ

別電

陳廉伯ノ密輸入セル武器中其一部分ハ商團ヨリ出資購入セル事實ヲ承認セルカ故ニ省長ニ命シ之ヲ引渡サシム可シ然レト陳廉伯ハ吳佩孚ト通シ外国人ト結ヒテ八月十四日ヲ期シ政府ヲ顧覆シ之ニ代リテ自ラ廣東督軍ト為ラントスル陰謀發覺シタルカ故ニ商團軍中右ノ經緯ヲ知リ自ラ悔悟スル者ハ之ヲ許スモ今後尚陰謀ヲ企テントスル者ハ之ヲ懲罰ス可シ

在支公使ヘ転電セリ

五〇五 八月二十五日 在廣東天羽總領事
幣原外務大臣宛 (電報)
広東政府ノ武器引渡拒否ニ对抗シ商團側ニ於

付記 広東ハブ号事件顛末

第二二三号
(八月二十六日接受)

往電第二〇七号ニ関シ

商團側ハ二十二日各商業團体及市内各町代表大會ヲ開キ議決ノ結果再ヒ孫文ニ武器引渡ヲ要求セルモ満足ナル回答ヲ得サル為同日幹部間ニ於テ罷市實行ヲ決定セリ政府側ハ凡

第二一四号 (八月二十六日接受)

最近一週間位以前ヨリ当地新聞電報ハ頻ニ江浙關係ノ陰惡ヲ伝ヘ居ルモ「ハヴ」号武器問題及廣東中央銀行發行紙幣強制通用ニ抗議シテ仏山其他數ヶノ地方都市ハ二十二日ヨリ廣東ハ二十五日ヨリ同盟休業シタル外ニ十八日以来大本營ニ秘密會議ヲ統ケ居ル国民党中央執行委員会ニ於テハ胡漢民、廖仲愷等共產派ト張繼、謝持等^(非)共產派トノ間ニ激烈ナル衝突アリ孫政府ハ目下内争ニ忙シクシテ外事ヲ顧ミルノ余裕ナシ

支、奉天、天津、上海、福州、杭州、南京、汕頭へ転電セリ

五〇七 八月二十九日 在廣東天羽總領事ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

廣東政府ト商團側トノ折衝狀況並ビニ万一一ノ

場合ニ備工列國側ノ協議ニツキ報告ノ件

(八月三十日接受)

其後伍朝枢其他ヨリ調停案出テタルモ何レモ失敗ニ終リ政府側ハ二十七日午前八時開店スルニ非サレハ軍事処分ニ付

第二一七号

往電第二一三号ニ関シ

キ旨ヲ通告スルコトニ決定シ更ニ英仏領事及士官ノ間ニ内密ニ(市街戦開始ノ場合沙面ニ於ケル警備方法)沙面ニ砲弾落下シ其発射場所判明スルトキハ直ニ是レニ応戦スルコト(支那軍艦カ沙面外ニ碇泊シ沙面ヲ越エテ發射スルトキハ沙面ニ対スル敵対行為ト見做シ英仏軍艦ヨリ士官ヲ派シテ発射ヲ停止セシムヘク場合ニ依リテハ之ト応戦スルコトヲモ辞セサルコト等ヲ取極メタリ

同夜本官公安局長吳鉄城ト同伴雲南軍總司令楊希閔ノ本部

ニテ會議中ノ廖仲愷ト会見シ右ノ趣ヲ伝ヘタルニ廖省長ハ右ノ警告ヲ諒トシタル上先程商團ハ范石生及廖行趙ヲ通シテ(商家ハ二十九日午前八時開店ス)商團ハ政府ニ謀叛セサル旨ノ通電ヲ發スル代リ政府ハ陳廉伯ノ逮捕令ヲ取消ス(商團ハ政府制定ノ条例ニ從ヒ改進セラル)武器ハ政府ノ規則ニ從ヒ民國ニ交付セラル等ノ解決条項ヲ承諾シタルカ故ニ最早ヤ戰爭ノ危険ナカルヘシト述ヘタルカ遇々范石生ヨリ電話アリ商團ハ過日政府カ伝單ヲ配布シ居ル商團人ヲ射殺シタル事實ヲ抗議シ明朝開市ノ承諾ヲ取消シ來リタル旨通報シ越セリ去リ乍ラ范石生等ハ尚解決ニ奔走シ居ルカ故ニ此所一両日中ニハ何トカ形勢ノ見定メ付クヘキカ

北京、香港へ転電セリ

五〇八 八月三十日 在廣東天羽總領事ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

國民党中央委員總會會議ノ内容トクニ共產派ト反共產派ノ件

(八月三十一日接受)

往電第二一四号ニ関シ

國民党中央委員總會ハ八月十八日開会二十六日閉会會議ノ内容ハ極秘ニ付セラルモ委員ノ一人李烈鈞ヨリノ聞込ミトシテ井上ノ内話ニ依レハ會議中共產派ト反共產派トノ確執解ケス孫文ノ裁決ヲ仰キタル結果遂ニ共產派ノ勝利ニ帰シ露国代表「ボロジン」、胡漢民、廖仲愷、蔣介石(新聞通信社主ノ内話ニアリト言フ)ヲ委員トスル最高委員会成立シ同時ニ実力派ヲモ懷キ込ムソモリニテ各軍總司令即チ楊希閔、許崇智、譚延闓、劉震寰、樊鐘秀モ又委員ニ任命セラレタル趣ナリ将来右最高委員会ノ決定カ如何ナル程度迄孫文ノ政策ヲ左右スルヤハ今後ノ実積ニ徴スルノ外ナキモ右委員会ノ成立ハ確ニ共產派ノ成功ニシテ勞農露國ノ對

廣東政策ニ一段ノ躍進ヲ見ルモノト云フヘク從テ張繼、謝持、鄧沢如、覃振等反共產派(不明)ノ一派或ハ別派ヲ立ツルニ

至ルヘキカ孫科及吳鉄城等所謂少壯派ハ近來組織セラレタル廣東市黨部委員会ニ立籠リ該委員会ハ規則上ニ於テハ中央執行委員会ノ節制ヲ受クヘキ筈ナルモ事實上ハ之カ節度ニ服セス殊ニ最近ニ至リテハ反共產派タル廣東建国宣伝団ノ大部分ヲ買収シテ其勢力侮ル可ラス建国宣伝団ノ牛耳ヲトル馮自由、劉成禺、呂志伊等ハ廣東ニ於テハ施ス策ナク

唐繼堯、趙恒惕、閻錫山等實力派ヲモ抱擁シテ旧中國同盟會ノ組織ニ別派ヲ立ント焦慮ス其成功ハ覺束ナキモ目下馮自由ハ北京ニ劉成禺ハ上海ニ遊説中ナリ斯ノ如ク孫文及元老派ノ勞農露國接近益々露骨トナルニツレ党内動搖又甚シク党内ノ内訌ハ目下ハ江浙ノ變局及廣東ノ騒擾ニ紛レテ余リ外間ノ注意ヲ惹カサルモ何レハ爆發ノ期至ルヘキカ支ヘ転電セリ

奉天、上海、天津ヘ暗送セリ

五〇九 八月三十日 在廣東天羽總領事ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

范石生等ト商團幹部トノ間ニ調停成立シ商團

側ノ同盟休業取止メノ件
(八月三十一日接受)

第二二〇号
往電第二一七号ニ関シ

二十九日范石生並慶行超ト商團幹部トノ間ニ調停条件成立調印ヲ了シ三十日商家一齊ニ開店セリ

三十日陳廉仲ヨリ内報シ来レル調停条件ハ右拙電中慶仲愷ノ談話ト符合スルカ唯其中ニハ范石生及廖行超ハ商團ニ対シ護照記載ノ武器及弾薬ヲ交付スルコトヲ請負ヒ商團ハ軍費五十万元ヲ政府ニ納付スルコトヲ承諾スル明記シアリ

政府側カ最近ノ言明ニ反シ武器ヲ交付シ陳廉伯等ノ逮捕ヲ知リタルニ依ルヘシ但シ政府側ハ既ニ武器ノ幾分ヲ工團ノ如ク動カス廣東トノ連絡絶エタル為政府ニ抗議シ難キヲ改組及五十万元ノ軍用金納付ヲ承諾セシハ地方商團カ予期局ノ急変ニ刺戟セラレタルニ依ルヘク商團側カ商團連防ノ取消スニ至リタルハ商人ノ結束案外ニ鞏固ナリント北方戰シテハ今後モ尚幾分ノ波瀾ヲ免レサルヘキカ

(労働者)軍ニ交付シタリトノコトナレハ武器ノ分配ニ對シテハ今后モ尚幾分ノ波瀾ヲ免レサルヘキカ
北京ヘ転電セリ

五一〇 九月四日 在廣東天羽總領事ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

英國側ノ威迫的言動ニ対スル孫文ノ抗議要領

支、香港ヘ転電セリ
リト云フニアリ
(九月五日接受)

五一一 九月五日 在廣東天羽總領事ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

孫文ノ北伐決定等ニ關スル大本營會議ニツキ

報告ノ件

第二二二号
(九月五日接受)

二日孫文秘書葦玉孫文ノ命ニ依ルトテ來訪シ英國總領事ヨリ傳交渉員ニ宛タル八月二十九日付公文ノ写真ヲ示シタル

カ右公文ハ先ツ往電第二二七号中領事団ノ警告ヲ列挙シタル後當地英國首席海軍士官ハ香港上級士官ヨリ若シ支那官憲カ市街ニ発砲スルトキハ英國ハ總テノ軍艦ヲ以テ直ニ之

ニ敵対スヘシトノ命令ヲ受ケタルニ付通告ストアリ葦秘書

ハ領事団カ口頭ニテ先日ノ如キ警告ヲ為シタルハ穩當ナルモ英國總領事ノ右ノ如キ恐喝的文書ニ対シテハ孫文モ非常ニ憤慨シ特ニ之ヲ首席領事タル本官ニ通報センカ為メ派遣セラレタル次第ナリト述ヘタルカ四日ノ新聞ハ之ニ闕スル

孫文ノ宣言及英國首相ニ宛タル抗議ヲ發表シ再ヒ英國攻撃ヲ初メタリ右宣言及ヒ抗議ノ要点ハ英國ハ從來国民党ノ運動ヲ妨害シタリシカ今回モ陳廉伯ノ廣東政府ニ対スル謀反ヲ援助シ支那ノ内政ニ干渉シ帝国主義的侵略ヲ行フモノナ

廣東ニ留守隊ヲ置ク

(一)孫文客(外省)軍全部ヲ統帥シテ親征ス
九月八日大本營ヲ韶關ニ移ス

廣東ニ留守隊ヲ置ク

(二)差当リ左記部隊ヲ以テ第一次北伐軍ヲ編成シ譚延闡ヲ前敵統率トス

河南軍樊鍾秀所部約三旅(二千)、中央直轄第一軍朱培德約一師半(三千)、江西軍李明楊所部約一旅半(一千五百)、湖南軍譚延闡所部四軍(約六千)

九 広東軍政府関係 五一二 五一三

五三二

④各部隊ハ九月一日各所在地ヨリ急ニ韶州及其以東江西省

境(不明)ニ向ヒ集中運動ヲ開始シ十日以内ニ集中ヲ完

成ス

⑤北伐宣言ヲ發ス

大本營部内ニ於テハ北伐ヲ最強硬ニ主張スルモノハ譚延闊、李烈鈞及樊鍾秀等客軍ノ諸將ニシテ今回ノ北伐計画モ

廣東軍ヲ東江ニ留メ客軍ヲ北伐ニ使用セントスルモノナル

カ目下北伐実行ノ障害ヲ為スモノハ(一)陳炯明ノ襲來ト(二)軍

費ノ調達トニアリ而シテ廣東側ノ意向ハ陳炯明ニ對シテハ

暫ク之ト妥協シ陳軍ヲ福建方面ニ向ハシムヘク目下汪兆銘

頻ニ奔走スルモ成功スルヤ疑ハシ又軍費ハ当地ニ於テ調達

スル以外奉天ヨリノ援助ヲ頼リトシ葉恭綽仲介ノ勞ヲ執リ

居ルトノコトナルモ孫軍事実江西ニ攻入ル後ニアラスンハ

北方ヨリ軍費ノ供給ヲ期待スルヲ得サルヘク從テ前記諸部

隊ノ内河南軍及朱培德所部以外ハ現在駐屯地ト軍費ノ關係

上急ニ集中ヲ見ルコトハ困難ナルヘシト観測セラル

汕頭ニ転電シ福州、九江ニ暗送セリ

五一二 九月七日

在広東天羽總領事ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

五一三 九月十二日

在広東天羽總領事ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

商團問題解決条件ハ未ダ履行サレザル旨並ビ

二英國ト商團側トノ關係ニツキ申進ノ件

(九月十三日接受)

第三三二号

商團問題解決条件ハ九月五日迄ニ履行セラル可キ筈ナルモ

政府ハ未タ武器ヲ渡サス廣東市ヨリ撤退セス商團側ハ政府

擁護ノ通電ヲ發セス(政府ハ通電中ニ陳廉伯カ英國人ニ使

嗾セラレテ政府顛覆ヲ謀リタリ云々トノ文句ヲ記載セシメ

ントスルモ商團側之ヲ承諾セス)又軍費ヲ納入セス其ノ他

ノ条件モ一トシテ實行セラレサルカ故ニ調停者范石生、廖

行超等ハ苦境ニ陥リ仲秋節以後政府ト商團トノ争鬭再発ノ

場合ハ商團側ニ加担スヘシトノ風説喧伝サル茲ニ問題トナ

ルハ英國ト陳廉伯及商團トノ關係ナルカ廣東政府ハ往電第

一二二一号英國訓示公文事件以来英國ハ陳廉伯一派ヲ援助セ

リトテ之ヲ攻撃シ同僚中ニモ英國ト商團トノ關係ニ付疑ヲ

挾ムモノナキニアラサル処(九月六日付機密第一一五号拙

信参照)九月十一日陳廉仲ハ當地三井支配人ニ對シ商團ハ

五十万元ヲ政府ニ納入スル代リニ英國ヨリ武器ヲ買入レ香

港ニ於テ旧英國砲艦「ロビン」艦長「ワルト」ノ手ヲ經テ

受取ルコトニナリタリト内話シタル趣聞込タリ商團問題ニ

関スル陳廉仲ノ談話ハ懸引多ク必スシモ信ヲ措キ難キモノ

アリ内査中ナルモ御参考迄

公使ニ転電シ香港、汕頭へ暗送セリ

五一四 九月十一日

在汕頭内田領事代理ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

往電第二二三一号ニ関シ

広東政府ト商團軍トノ衝突ニ際シ陳炯明軍ノ起タサリシハ

其ノ解決ノ余リニ速ナリシト軍費ノ不如意トニ依ルハ勿論

第二九号

(九月十五日接受)

孫文政府ト商團軍トノ衝突ニ際シ陳炯明軍ノ起タサリシハ

其ノ解決ノ余リニ速ナリシト軍費ノ不如意トニ依ルハ勿論

九 広東軍政府関係 五一四 五一五

孫文ノ北伐宣言及ビ廣東省民ニ与フル通電發
表ノ件

第三一八号

往電第二二六号ニ關シ

六日孫文ノ北伐宣言及北伐ニ關シ廣東省民ニ与フル通電發

表ナル

北京、上海、奉天、天津へ転電セリ

五一三 九月十二日

在広東天羽總領事ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

商團問題解決条件ハ未ダ履行サレザル旨並ビ

二英國ト商團側トノ關係ニツキ申進ノ件

(九月十三日接受)

第三三二号

商團問題解決条件ハ九月五日迄ニ履行セラル可キ筈ナルモ

政府ハ未タ武器ヲ渡サス廣東市ヨリ撤退セス商團側ハ政府

擁護ノ通電ヲ發セス(政府ハ通電中ニ陳廉伯カ英國人ニ使

嗾セラレテ政府顛覆ヲ謀リタリ云々トノ文句ヲ記載セシメ

ントスルモ商團側之ヲ承諾セス)又軍費ヲ納入セス其ノ他

ノ条件モ一トシテ實行セラレサルカ故ニ調停者范石生、廖

行超等ハ苦境ニ陥リ仲秋節以後政府ト商團トノ争鬭再発ノ

ナリト雖時恰モ蘇浙衝突ノ兆アリ吳佩孚南方ニ事ヲ起スヲ

好マス陳軍ノ廣東攻擊ヲ差止メタル事實アリシカ併シ最近

六十余万元ノ軍費調達ニ成功シ愈々去ル十日東江ニ向ケ出

發シタルモ蘇浙戰局ノ旗色判明スル迄ハ兵ヲ進メス暫ク傍

観ノ態度ヲ執リ孫軍ノ北上ヲ牽制シ直隸派ノ形勢非ニ陥ラ

サル間ハ孫トノ妥協ニ応セサル可ク目下孫ノ北伐説ハ寧ロ

冷笑セラレツツアリ

公使ヘ転電シ廣東、廈門、福州、上海へ郵報セリ

五一五 九月十三日

在広東天羽總領事ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

孫文ハ北伐ニ出發セルガ今回ハ單ニ行營設置

申進ノ件

(九月十四日接受)

第二三三号

孫文ハ十三日朝大本營(行營)秘書長古應芬北伐第二軍長

柏文蔚警衛軍司令吳鐵城(公安局長)江西軍司令李明楊其

ノ他參謀副官都合九名ノ幹部ト警衛軍及江西軍ノ一部約千

五百ト共ニ三個ノ特別列車ニテ韶關ニ向ヘリ孫文不在中胡

九 広東軍政府関係 五一六 五一七

五三四

漢民代理ス吳鉄城ノ警衛軍三團ハ全部北伐出征ニ決シ十三日ヨリ動員ヲ開始シ朱培德軍ハ十四日ヨリ輸送ノ筈十二日他用來訪シタル李烈鈞ノ談ニ依レハ孫文今回ノ北行ハ單ニ行營設置ト北伐士氣鼓舞ノ為ニテ韶関ニ於テ諸般準備ノ上間モナク帰粵スヘントノコトナリ

公使、奉天、天津、上海、福州、杭州、南京、蘇州、香港、汕頭、漢口、九江ニ転電セリ

五一六 九月十五日 在広東天羽總領事ヨリ
幣原外務大臣宛（電報）

孫文、唐繼堯間ノ諒解成リ連合シテ建国軍ヲ

組織シ北伐協力ニ決定ノ件

第二三六号 （九月十六日接受）

九月三日以来当地滯在中ノ石青陽ハ会食ノ際孫文、唐繼堯ノ諒解成リ十一日大本營會議ノ結果唐繼堯ノ靖國軍ト孫文ノ討賊軍トヲ連合シテ建国軍ヲ組織シ共ニ北伐ニ從事スルニ決定シ十二日西南各省諸將ニ其旨通電セリ但懲辛ハ過般來香港ニ於テ孫陳和議ニ奔走シ居タリシカ陳派陳覺民ト同行十四日頃咸豐（？）ニ於テ陳炯明ト會見ノ筈約一週間ノ後但ハ奉天石青陽ハ上海ニ行キ西南各省トノ連絡運動ヲ試

ムヘク張沖、王麗仲ハ既ニ浙江ニ赴キタリト談ンタリ唐孫提携力如何程進ミ居ルヤ将又緩漫ナル西南諸將ノ連絡運動カ當面ノ戰局ニ如何程ノ影響ヲ与フルヤ疑ナキ能ハスト雖時節柄御参考迄

北京、奉天、上海、雲南ヘ転電シ杭州、南京、重慶、香港ヘ暗送セリ

五一七 九月十六日 在広東天羽總領事ヨリ
幣原外務大臣宛（電報）

孫文ハ北伐ヲ機ニ政府要部ヲ刷新ノ件

第二三八号 （九月十七日接受）

孫文ハ北伐ヲ機トシ政府要部ノ更迭ヲ行ヒテ内訌ヲ停止シ兼テ省民トノ融合ヲ計ラムトセシ矢先元老派ノ暗中飛躍功ヲ奏シ其結果十三日胡漢民省長、廖仲愷財政部長軍需總監兼財政府長、李福林警務署長兼市長、李朗如公安局長ニ夫夫任命ノ内命ヲ受ケ幹部ハ元老派及省民關係者ノ占ムル處トナリ少壯派ノ孫科ハ出テ奉天ニ使スヘク吳鉄城ハ既ニ警衛軍ヲ率ヒテ韶関ニ赴キタリ

北京、奉天、上海、天津、福州、漢口、香港、九江、南京、杭州、蘇州、汕頭ヘ転電セリ

必要アルヘキカトノ噂アリ

在支公使、奉天、上海、天津ニ転電シ福州、漢口、香港、九江、南京、杭州、蘇州、汕頭ニ暗送セリ

五一八 九月二十四日 在広東天羽總領事ヨリ
幣原外務大臣宛（電報）

孫文ト商団側間ノ武器返還問題ノ推移ニツキ

報告ノ件

第二四六号

（九月二十六日接受）

段祺瑞代表許世英ノ來粵トソノ使命ニツキ十報

告ノ件

第二五四号

（十月一日接受）

段祺瑞代表許世英二十九日廣東着一兩日中ニ孫文ニ會見ノ為韶関ニ行ク筈ノ處右來粵ノ目的ニ付三十日胡漢民ノ談ニ依レハ許ハ（将来政治ノ方針ト）共同出兵計畫トニ付孫文ト協議シ（陳炯明ニ對シ段祺瑞擁護ヲ勧説センカ為ナリト言フ

ナリ承諾ノ氣配ナシ他方孫陳和議ハ其後モ數多ノ要人運動シ居ルモ何等纏ルヘキ見込ナキハ二十一日韶関ニ於テ孫文ノ有久ニ對スル言明ニ徵スルモ明白ナルカ最近江浙戰報伝ハルト同時ニ陳軍再ヒ攻勢ニ出ツヘキ危險ヲ感スルニ至レリ依テ二十二日胡漢民、廖仲愷、譚延闓等ハ韶関ニ着キ孫文ト是等諸問題ニ付（脱）ルカ場合ニ依リテハ孫文帰粵ノ

支、天津、奉天、上海ヘ転電セリ

五一〇 十月一日 在広東天羽總領事ヨリ
幣原外務大臣宛（電報）

孫文軍ノ東江撤退ト范石生ノ動向ニツキ中進ノ件

第二五六号

（十月一日接受）

九月二十八日東江方面ノ孫軍（主トシテ范石生ノ雲南軍）

突然仙村（廣東ノ東約十五日本里）一帯ニ引揚ケタリ右ニ

付政府側（三十日胡漢民及譚延闓ノ談話ニ依ル）ニテハ北

伐実行ノ決意ヲ表スト同時ニ其作戦上戦線ヲ縮少シタルモ

ノト説明シ居ルモ諸方面ヨリノ情報ヲ綜合スルニ右ハ近來

商團問題ト財政統一問題（孫文ノ財政統一ハ結局収税ノ実

權ヲ握レル范石生ノ收入ヲ絶ツコトナル）トニテ孫文ト

ノ関係疎隔ヲ来セル范石生カ自己ノ立場擁護ノ上ヨリ此舉

ニ出タリト見ルヲ至当トスヘキニ似タリ最近當方面ヨリノ

觀測ニ依レハ吳佩孚ト葉挙、林虎、洪兆麟トノ関係益々露

骨トナルニ從ヒ陳炯明自身ノ孫文ニ対スル關係ニ変調ヲ来

サントスルモノノ如ク同時ニ孫文ヨリ離レントスル范石生

一派ハ林虎一派ト近ツカントスル氣配ヲ示シ廣東政局ハ近

ク何等カノ變ヲ来スヘキヤノ徵候ヲ見ル

支、奉天ヘ転電セリ

上海、汕頭、天津、雲南、杭州へ暗送セリ

五二一 十月九日 在廣東天羽總領事ヨリ

幣原外務大臣宛（電報）

廣東諸客軍ノ誅求ニ對シ商團側ハ同盟休業ヲ

上海、汕頭、天津、雲南、杭州へ暗送セリ

五二二 十月九日 在廣東天羽總領事ヨリ

幣原外務大臣宛（電報）

工団軍ト商団軍トノ衝突起リ工団軍兵七名即死ノ件

第二六五号

（十月十一日接受）

往電第二六三号ニ關シ

其後政府ハ戰時軍需署ヲ撤廃シ商團ニ武器ノ一部ヲ返還シ

タルモ同日全市ニ武装出動シタル商團軍ト國慶祝賀トシテ
反帝國主義示威運動ヲナセル工団軍トノ間ニ衝突起リ工団
軍兵七名即死セリ

商團ハ武器不足額引渡ヲ要求シ十一日ヨリ引続キ罷市セリ

十日工人部長廖仲愷ハ私ニ香港ニ走リ施ト外工団幹部ハ警
務處ニ抑留セラレタル為工団軍今後ノ出方判明セス

北京ヘ転電シ奉天、天津、上海、汕頭へ暗送セリ

五二三 十月十一日 在廣東天羽總領事ヨリ

幣原外務大臣宛

孫文ノ建國大綱内容ニツキ報告ノ件

付屬書 右建國大綱要訊

建国大綱要訊

宣言（孫文政府ノ建國大綱）

辛亥革命ヨリ今日ニ至ル迄ニ革命ニ依リ得タルモノハ只中
華民国ノ名称ノミ、即國家利益ノ方面ヨリ言ヘハ未タ中國

ヲシテ國際的平等ノ地位ニ進ムル能ハス國民利益ノ方面ヨ
リセハ政治經濟上ニ未タ何等ノ進歩ヲ見ス他方國內分離ノ
禍日ト俱ニ深シ、故ニ其禍根ヲ究メ之カ救濟ノ道ヲ講スル

ハ誠ニ刻下ノ急務ナリトス
抑々革命ノ目的ハ三民主義ノ實行ニ在リ而シテ三民主義ノ
對シテ抱懷スル思想及主義政策ヲ會得スルニ好個ノ参考資

以テ对抗ノ構工ナル旨報告ノ件

（十月十日接受）

第二六三号

（十月十日接受）

商團問題解決セサルニ諸客軍ハ最近更ニ戰時軍需署ナルモ

ノヲ設ケ盛ニ誅求セシ為商團及商業連合会代表ハ先ツ香港

ニ會議シ（陳派ノ キンセウ 陳覺民列席）次テ四日及五日仏山ニ

於テ協議シタル結果十日ヨリ廣東全市及省内各都市ノ總罷

業ヲ断行スル事トシ八日極メテ巧妙ナル方法ヲ以テ密ニ広

東全市ニ伝單ヲ配布シタリ他方最近范石生、林虎ノ連絡運

動ニ対シテ許崇智ト陳派廣東軍トノ連絡運動起リ今ヤ廣東

政局ハ益々紛糾ヲ極ムルニ至レリ

在支公使ヘ転電シ奉天、上海、天津、南京、杭州、汕頭へ
暗送セリ

在支公使ヘ転電シ奉天、上海、天津、南京、杭州、汕頭へ
暗送セリ

上海、汕頭、天津、雲南、杭州へ暗送セリ

五二一 十月九日 在廣東天羽總領事ヨリ

幣原外務大臣宛（電報）

工団軍ト商団軍トノ衝突起リ工団軍兵七名即死ノ件

第二六五号

（十月十一日接受）

往電第二六三号ニ關シ

其後政府ハ戰時軍需署ヲ撤廃シ商團ニ武器ノ一部ヲ返還シ

上海、汕頭、天津、雲南、杭州へ暗送セリ

五二二 十月十一日 在廣東天羽總領事ヨリ

幣原外務大臣宛（電報）

工団軍ト商団軍トノ衝突起リ工団軍兵七名即死ノ件

第二六五号

（十月十一日接受）

往電第二六三号ニ關シ

其後政府ハ戰時軍需署ヲ撤廃シ商團ニ武器ノ一部ヲ返還シ

上海、汕頭、天津、雲南、杭州へ暗送セリ

五二三 十月十一日 在廣東天羽總領事ヨリ

幣原外務大臣宛

孫文ノ建國大綱内容ニツキ報告ノ件

付屬書 右建國大綱要訊

建国大綱要訊

宣言（孫文政府ノ建國大綱）

辛亥革命ヨリ今日ニ至ル迄ニ革命ニ依リ得タルモノハ只中
華民国ノ名称ノミ、即國家利益ノ方面ヨリ言ヘハ未タ中國

ヲシテ國際的平等ノ地位ニ進ムル能ハス國民利益ノ方面ヨ
リセハ政治經濟上ニ未タ何等ノ進歩ヲ見ス他方國內分離ノ
禍日ト俱ニ深シ、故ニ其禍根ヲ究メ之カ救濟ノ道ヲ講スル

ハ誠ニ刻下ノ急務ナリトス

抑々革命ノ目的ハ三民主義ノ實行ニ在リ而シテ三民主義ノ

對シテ抱懷スル思想及主義政策ヲ會得スルニ好個ノ参考資

革命以前ニ三民主義ヲ提倡スルト同時ニ主義実行ノ手段方法ヲ定メ革命建設ヲ分チテ軍政、訓政、憲政ノ三時期ト為シ逐次漸進以テ革命運動ノ完成ヲ期シタリ

辛亥革命ニヨリ數月ヲ出スシテ四千余年来ノ君主專制政体及二百六十余年間ノ滿州朝廷ハ倒壊セリ革命破壞ノ力小ナリト言フ可ラスト雖モ而モ今日ニ至ル迄所謂三民主義ノ实行遲々トシテ進マサルハ即チ破壞ノ後予定ノ順序ニ依ラシテ建設ヲ為シタレハナリ、蓋シ軍政時代ヲ經ルニ非ンハ反革命ノ勢力ヲ掃蕩スル能ハス又革命ノ主義ニ對スル民衆ノ同情ト信仰ヲ得ルニ由ナシ而シテ訓政時代ヲ經ルニ非ンハ多数人民ハ革命ニ依リ解放セラレタリト雖モ而モ久シキニ亘ル拘束ノ為当初其活動ノ方向ヲ知ラス其結果積年ノ故習ニ倣フカ然ラスハ不知不識ノ間反革命ニ利用セラレテ其傀儡トナルニ至ル、前者ノ病根ハ革命破壞ノ不徹底ニ在リ後者ノ弊根ハ革命建設ノ渋滞ニ在リ辛亥革命後倉皇トンテ臨時約法ヲ制定シ依テ以テ国民ノ基礎茲ニ奠マレリト為セリ然ルニ安ソ知ラン約法ハ予期ト反対ノ結果ヲ生セリ於是人民ハ紛々約法ヲ批議シテ新ニ永久憲法ノ制定ニ從事シ之ニ藉リテ以テ臨時約法ノ不備ヲ救濟セント欲セリサレ

真ノ人民自治ト為ル可シ地方自治已ニ完成セハ則チ國家組織モ始メテ完備ス可ク人民亦其地方ノ政治的訓練ニ基キテ以テ國政ニ与ル可シ、第十九条以下ニ於テハ訓政ヨリ憲政ニ漸進スルニ必須ノ条件及順序ヲ規定シタリ、之ヲ綜スルニ建国大綱ナルモノハ障礙排除ニ初リ建設完成ニ終ルモノニシテ本末先後秩然トシテ整ヘルモノナリ
抑々革命ハ非常ナル破壞ナルカ故ニ之ニ繼クニハ亦非常ナル建設ヲ以テセサル可ラス若シ夫レ建国ノ大綱ニ依ツテ進マムカ即軍政時代ニ於テ能ク反^対側^ヲ蕭清シ訓政時代ニ於テ能ク民治ヲ扶植スルヲ得可シ、憲政ノ名無シト雖モ而モ人ノ得可キ権利ト幸福トハ已ニ憲法ヲ口トシテ專政ヲ行フ者トハ同日ノ談ニ非ス且漸次憲政時代ニ進マンカ程序坦々トシテ顛蹶ノ虞無ク民国ノ為国民ノ為真ニ之ニ若クモノ無カルヘン、今後革命勢力ノ及フ處、本政府ノ命令ニ從フ者ハ皆建国大綱實行ヲ唯一ノ職責トナスヘシ

建国ノ大綱

一、国民政府ハ革命ノ三民主義及五権憲法ニ基キテ中華民国ヲ建設ス

二、建設ノ第一ハ民生ニ在リ、故ニ全国人民ノ衣食住行ノ

ト其病源ハ臨時約法ノ不備ニアラスシテ実ニ軍政訓政ノ両時期ヲ經スシテ直チニ憲政時代ニ入りタルニ在リシヲ奈何、試ニ民国元年臨時約法頒布後ノ状勢ニ觀ルニ反革命ノ勢力ハ啻ニ消滅セサルノミナラス却テ臨時約法ノ頒布ニ藉リテ其奸惡ヲ肆ニシ終ニハ臨時約法其者ヲモ廢棄シ去リニ非スヤ本政府ハ今後ノ革命ニ於テハ過去ノ失敗ニ鑑ミテ其弊ヲ矯メ以テ辛亥革命未成ノ事業ヲ完成セント欲ス即チ今後ノ革命ハ破壞ニノミ没頭スルコトナク寧ロ建設ニ力メサル可ラス依テ之力為ニ遵守ス可キ程序ヲ規定セムトス、此ノ主旨ニ基キ茲ニ国民政府建国大綱二十五ヶ条ヲ制定シ以テ今後革命ノ典型ト為ス

建国大綱ノ第一条乃至第四条ニハ革命ノ主義及其内容ヲ宣布シ第五条以下ニハ實行ノ方法ト手段トヲ規定ス、即チ第六七兩条ニハ軍政時期ノ宗旨ヲ標明シ反革命ノ勢力排除ト革命主義ノ宣伝トニ努メ第八条乃至第十八条ニハ訓政時期ノ宗旨ヲ標明シ人民ヲ指導シテ革命建設ノ進行ニ從事セシメムトス、之力為先ソ県ヲ自治ノ単位トナシ各県内ニ於テ「除旧布新」ニ努メ以テ人民権力ノ基本ヲ樹立シ然後之ヲ拡充シテ以テ省ニ及ホススノ如クシテ始メテ所謂自治ハ

ス

五大需要ニ對シテハ政府ハ人民ト協力シテ共ニ農業ノ發展ヲ謀リテ民食ヲ充シ織業ノ發展ヲ謀リテ民衣ヲ裕ニシ大計画ノ各種家屋ヲ建築シテ民住ニ備ヘ道路運河ヲ修治シテ民行ニ便セムコトヲ期ス

三、建設ノ第二ハ民權ニ在リ、故ニ人民ノ政治的智識能力ニ對シテハ政府ハ當ニ之ヲ訓導シ罷免権、創制権、複決権ヲ行使セシム可シ

四、第三ハ民族トス、故ニ国内ノ弱小民族ニ對シテハ政府ハ當ニ之ヲ扶助シ之ヲシテ自決自治スルヲ得シム、国外ノ侵略的強権ニ對シテハ政府ハ當ニ之ヲ防禦ス可キト同時ニ各国トノ條約ヲ改修シ以テ我国際的平等國家獨立ヲ恢復ス可シ

五、建設ノ程序ヲ分チテ三期トス、一ヲ軍政時期ト云ヒ二ヲ訓政時期ト云ヒ三ヲ憲政時期ト云フ

六、軍政時期ニ在リテハ一切ノ制度ハ悉ク軍政ノ下ニ隸屬シ政府ハ一面兵力ヲ以テ国内ノ障碍ヲ排除スルト共ニ他方主義ヲ宣伝シテ全國ノ人心ヲ開化シ國家ノ統一ヲ促進

期トス

八、訓政時期ニ在リテハ政府ハ訓練シテ試験ニ合格シタル者ヲ各県ニ派遣シ人民ト協力シテ自治ノ籌備ヲナサシム、自治県ハ全県ノ人口ヲ精密ニ調査シ全県ノ土地ヲ測量シ全県ノ警衛完備シ道路ノ修築竣成シ人民カ四権使用ノ訓練ヲ受ケ国民ノ義務ヲ完全ニ果シ革命ノ主義ヲ実行シ県官ヲ選挙シテ一県ノ政事ヲ執行スルコトヲ得議員ヲ選挙シテ以テ一県ノ法律ヲ議定シ得ルニ至リテ始メテ完全ナル自治県トス

九、一旦完全ナル自治県トナラハ其国民ハ直接官員選挙、官員罷免、法律創制、法案復決ノ権ヲ有ス

十、各県ハ自治開始ノ時ハ先ツ全県ノ私有土地ノ価額ヲ規定スルヲ要ス

其方法ハ地主自身之ヲ報告ス地方政府ハ右価額ニ準シテ徵税シ且隨時代価ヲ支払ヒテ買収シ得ヘシ、若シ土地ニシテ政治ノ改良社会ノ進歩ニ依リ増価スル場合ニハ其利益ハ全県人民ノ共ニ享受ス可キモノニシテ地主ハ自ラ之ヲ私スルヲ得ス

十一、土地ノ歳収、地価ノ増益、公有地ノ生産、山林沼沢

ノ利益及礦產水力ノ利益ハ皆地方政府ノ所有トシ以テ地方人民ノ事業及育幼、養老、救貧、救災医病其他ノ種々ノ公共ノ事業ニ充用セシム

十二、各県ノ天然富源及大規模ノ商工事業ニシテ該県ノ資力ニテハ發展ト創業トヲ期スル能ハス外資ニ頼テ經營スル者ハ中央政府ヨリ之ヲ協助ス右ノ場合所得純利ハ中央地方両政府各々一半宛ヲ領ス

十三、各県ハ中央政府ニ対シ各県ノ歳収ノ百分ノ若干ヲ負担シ中央政府ノ歳費トナシ其額ハ毎年国民代表ヨリ之ヲ決定ス其限度ハ最少百分ノ十最多百分ノ五十トス

十四、各県ハ地方政府成立後国民代表一名ヲ選挙スルコトヲ得、以テ代表会ヲ組織シ中央政事ニ参与セシム

十五、凡ソ選挙ノ候補者及委員ニ任命セラル者ハ皆中央試験確定後合格者タルヲ要ス

十六、凡ソ一省内ノ縣全部カ完全ニ自治ヲ達成シタル時ヲ憲政開始ノ時期トシ国民代表会ハ省長ヲ選挙シ該省自治ノ監督トナスコトヲ得該省内ノ国家行政ニ至テハ則チ省長ハ中央ノ指揮ヲ受クルモノトス

十七、此ノ時代ニ在リテハ中央ト地方トノ権限ハ均權主義

ヲ採用ス、凡ソ事務ニシテ全国一致ノ性質アルモノハ中央ノ権限ニ帰属セシメ地方的特種ノ性質アルモノハ地方ニ帰属セシム、中央集権或ハ地方分権ニ偏セラシム

十八、県ハ自治ノ単位タリ、省ハ中央ト県トノ中間ニ立チ以テ連絡ノ用ヲ為サシム

十九、憲政時期ニアリテハ中央政府ハ五院ノ設立ヲ完成シ五權ノ治ヲ試行ス可シ、其序列ハ一、行政院二、立法院

二十四、憲法頒布後中央ノ統治権ハ国民大会ニ帰属シ中央政府ノ官吏ニ對シ選挙権能免権ヲ有シ中央法律ニ對シ創制権復決権ヲ有ス

二十五、憲法頒布ノ日ハ即憲政成功ノ時ニシテ全國国民ハ

則チ憲法ニ依リ全國大選挙ヲ施行ス国民政府ハ選挙終結後三ヶ月ニシテ解職シ政權ヲ民選ノ政府ニ譲ル、茲ニ建國大功ハ完成ス

編註 右要訳ハ在廣東日本總領事館ニ於テ作成ノモノナリ

第二六八号

(十月十五日接受)

五一四 十月十四日

在廣東天羽總領事ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

廣東政府ハ廣東市中ニ戒嚴令ヲ布キ商團ヲ圧迫ノ件

ス

二十二、憲法草案ハ建国大綱及訓政憲政兩時代ノ成績ニ鑑

ミ立法院ニ於テ議定シ隨時民衆ニ宣伝シ以テ採択施行ノ準備ヲナス

二十三、全國ノ過半數ノ省カ憲政時期即全省ノ地方自治完成ノ時期ニ達セハ国民大会ヲ開キ憲法ヲ決定シテ之ヲ頒布ス

希閔ヲ總司令トナシ吳鉄城ハ警衛軍ノ一部ヲ率ヒテ韶關ヨリ帰ヘリ北方及東江ヨリ湖南軍及雲南軍ノ一部ヲ廣東ニ集中シツツアリ茲ニ三日ノ形勢ハ特ニ注意ニ值ス

北京、奉天へ転電セリ

上海、天津、汕頭へ暗送セリ

五一五 十月十五日 在広東天羽総領事ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

政府軍ト商團軍トノ衝突ニ伴イ領事団ヨリ同
政府ニ対シ外人ノ生命財産ノ損害ニツキ責任

ヲ負ウベキ旨申入ノ件

(十月十六日接受)

第二六九号

往電第二六八号ニ閲シ

商團ハ政府ノ要求スル(一)武装解除(二)開市(三)商團改造ニ応セ
サリシ為十四日夜半ヨリ政府軍(吳鉄城、李福林、許崇
智、廖行超軍等)ハ沙面ニ接近スル西閘(諸商店所在地
域)ヲ中心トシテ商團ニ発砲シ尚市街戦止マス市内諸所ニ
火災起ル

十五日朝領事団ハ本官発議ニ基キ政府ニ外国人ノ生命財産
ニ対スル損害ニ対シテハ政府ニ於テ責任ヲ負フ可キ旨申入
レタリ英仏葡諸軍艦當港ニ碇泊スルモ未タ何等ノ行動ニ出
テス九月六日付機密第一号ノ公文ヲ支那側ニ送リタル英國
總領事モ右領事団ノ警告ニ賛成シタル以外何等ノ行動ヲ執
ラス

第二七二号

(十月十七日接受)

往電第二七〇号ニ閲シ

(一)十五日ノ擾乱ハ廣東市未曾有ノ出来事ニシテ火災ハ十六
日午前六時ニ至リ漸ク鎮火セリ損害ハ何レ後報スヘキ処
右擾乱爆発ノ近因ハ往電第二六五号商團軍カ工團軍七名
ヲ慘殺シ次テ往電第二六九号政府側提出三ヶ条ノ要求ニ
応セサリシニ依ル商團側カ最初強硬ナル態度ニ出テシハ
陳炯明軍地方商團軍ノ援助ヲ期待シタルニ依ルモノナル
ヘク同時ニ商團側ハ政府カ斯ク迅速ナル武断手段ヲ執ル
ヘシトハ予想セサリシナルヘシ政府側幹部ハ十三日深更
大体ノ手筈ヲ定メタリト言フ

(二)省長胡漢民ハ商團幹部ハ沙面ニ潛在シ政府顛覆ノ陰謀ヲ
企テ居レリトテ英仏總領事ニ其取締並陰謀者引渡ヲ要求
シ往電第二六九号領事団公文ニ對スル回答中ニモ之ニ言
及セルモ英仏領事ハ本官ニ對シ陳廉仲カ沙面香上銀行ニ
避難シタル以外ハ右ノ如キ事実ヲ承知セス今後ト雖國際
法ニ認メタル政治犯人庇護ノ外ハ沙面ヲ政争ノ根源ト為
スコトヲ嚴禁スヘキ旨ヲ言明シ陳廉仲ハ英國總領事ノ注
意ニ依リ十五日夜船ニテ香港ニ行ケリ政府側ハ商團ハ英

五一六 十月十五日 在広東天羽総領事ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

戰火ニヨリ廣東市街炎上シ邦人安全地帯ニ引
揚ゲノ件

(十月十六日接受)

第二七〇号

往電第二六九号ニ閲シ

十五日早朝市内所々ニ起リタル火災ハ益々拡カリ夜ニ入り
テモ盛ニ燃エツツアリ此分ニテハ市内商業区域ハ殆ント全
部焼キ尽サルヘシ午後五時頃発砲止ミタルモ政府側軍隊ノ
掠奪行ハル発砲中ハ沙面ニ小銃弾丸盛ニ飛ヒ來リタルモ只
今ノ処火災ノ憂ナカルヘシ支那街危険区域ニ在住スル日本
人ハ少數ナルカ何レモ安全地帯ニ無事引揚ケタリ但火災若
クハ掠奪ノ被害ハ有ルヤモ知レス

公使ニ転電シ上海、奉天、天津、汕頭、香港へ郵送セリ

五一七 十月十六日 在広東天羽総領事ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

廣東市ノ火災漸ク鎮火ノ旨並ビニ廣東政府ノ
商團側ニ強硬態度ヲ執レル理由等報告ノ件

(四)日本人損害及之カ交渉ニ就テハ別電(脱)
報ス

(五)日本人損害及之カ交渉ニ就テハ別電(脱)
報ス

北京、奉天、上海、天津、汕頭、香港へ転電セリ

五一八 十月十七日 在広東天羽総領事ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

商團側ヨリ仏國領事ヲ通ジ調停方依頼及ビ之
ニ対スル廣東政府側ノ意向ニツキ胡漢民ト会

見ノ件

第二七二号 (十月十八日接受)

往電第二七一号ニ関シ

十五日午後二時頃仏國領事來訪目下仏國租界一仏商会内ニ避難スル陳廉仲外商團幹部三名ヨリ同領事ヲ通シ本官ニ調停方依頼申出アリタルトテ同行方ヲ希望シタルニ付仏國領事ト共ニ之ト会見セリ其際本官等ハ外國領事トシテハ其在留民ノ生命財産ヲ保護スル以外支那内部ノ紛争ニ干与スルコトヲ欲セサルモ何レモ現下ノ廣東市民ノ悲慘ナル狀況ニハ同情スルカ故ニ政府及商團何レノ利益ヲモ害セス又外国人トシテ内政ニ干渉ストノ嫌疑ヲ受ケサル範囲ニ於テ若シ何等便法アラハ非公式ニ幹旋ノ労ヲトルコトハ必シモ辞スルモノニ非サルヘシトノ意向ヲ述ヘタル後商團ノ政府ニ對スル提案ニ付聞キシニ何レ他ノ幹部ト協議ノ上確答スヘキ旨返答セリ同日夕方目下廣東ニアル商團幹部二名署名スル領事団宛調停依頼状ヲ送リ越セルカ其内ニハ(政府攻撃ヲ中止スレハ商團ハ直ニ開市ニ応ス)政府飽迄武器解除ヲ主張セハ商團解組問題決定スル迄公正ナル第三者ニ武器ノ保管ヲ托シ解組問題決定及武器ノ処分ヲ議ストノ提案ヲ

記載セリ當時偶々來合セタル英仏葡領事ノ意見ヲ叩キシニリ(同夜米國總領事ニ右ノ顛末ヲ話シ置キシカ独逸領事トハ交通遮断ノ為メ会談ノ機会ヲ得ス)然レト十五日夜ハ火災掠奪ニ伴フ混亂ノ為メ沙面ト支那町トノ交通杜絶シ如何トモ為シ能ハス別電スヘキ日本人掠奪被害並日本人ニ対スル保護問題ヲ兼ネテ十六日朝胡漢民ト会見政府ノ商團ニ対スル意向ヲ聞キシニ政府ハ客軍司令官會議ノ結果商團ニ武器返還ヲ命シ應セサルトキハ警察及学生軍ヲシテ戸別ニ付武器返還ニ当ラシムルコトシ現ニ戸別捜査ヲ開始セリトテ商團ノ武装解除ニ対シ断乎タル決心ヲ表ハシタルカ他方商團幹部ノ一部ハ香港ニ去リ他ノ一部ハ何處ニ在ルトモ分ラス之レトノ連絡ヲトルコトハ得サルノミナラス商團ノ一部目下港外西村三元里ニ集中再挙ヲ計ラントスル風説ヲ聞キタルカ故ニ兩者ノ間ニ調停ノ余地ナキモノト認メ其レ以上話ヲ進メス話頭ヲ他ニ転シタリ帰館後右ノ顛末ヲ同僚ニ伝ヘタルカ其際同僚ハ何レモ本官ノ所見ト一致スト述べタリ

斯クテ政府ハ今後モ引続キ武装解除ヲ強制スヘク商團ノ一部ハニ対シ武力抵抗ヲ主張シ居ル由ナルモ商團側ニハ武器少ナク(胡漢民ノ談ニ依レハ商團側ハ最初小銃拳銃取り雜セ六千挺ヲ有ン其内既ニ一千挺ハ政府ニ取上ケラレ尚五千挺ヲ保有スルモ彈薬欠乏ストノコトナリ)且ツ団結ヲ欠クカ故ニ外部陳炯明軍若ハ地方商團ノ援助ナキ限り对抗シ得サルヘシ

北京へ転電セリ

奉天、上海、天津、汕頭、香港へ暗送セリ

五二九 十月十八日 在廣東天羽總領事ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

廣東政府ニ対スル外人ノ損害賠償要求方ニ關

シ領事団ノ協議内容報告ノ件

(十月十九日接受)

第二七三号

往電第二六九号領事団公文ニ対シ同日交渉員既ニ軍隊及警察ニ対シ外国人保護方敵命シタルカ他方今回商團ノ謀叛ハ締協力方伝達セラレタキ旨回答ニ接シタルヲ以テ十六日領事団ハ沙面取締ニ就キテハ英仏当局ヨリ既ニ回答シタル筈

ナルカ之力為外国人保護ニ対スル責任ヲ回避スルコトヲ得サル旨申入レタリ

十六日葡萄牙領事來館各領事ヨリ其國民ノ被害ヲ首席領事ニ報告シ首席領事ヨリ一括支那側ニ報告シテハ如何ト提議シタルモ本官ハ各國政府ノ方針ハ必シシモ一致スルモノアラサル故ニ各領事間ニ意見ノ交換ヲ行ヒ大体歩調ヲ一ニスルコトハ贊成ナルモ支那側ニ対シテハ各領事別々ニ交渉セラレタキ旨答ヘ置キタリ

此見地ニ基キ十七日當館ニ於テ英、米、仏、獨、葡各總領事、伊國、和蘭、瑞西各名譽領事等參集意見ヲ交換シタルカ大体()目下確實ニ判明セル損害中交渉ノ目的トナリ得ルモノハ日仏各二件葡萄牙四件独逸一件何レモ財產上ノ被害ニシテ其原因ハ火災又ハ掠奪()北京政府カ孫派ヲ謀叛団体ト看做セル事實ニ鑑ミ當地各領事ヨリ孫文政府ニ交渉スルト同時ニ各公使ヨリ北京ニ交渉スルコト()財產上ノ損害ハ火災又ハ掠奪ニ因ル直接損害ニ対シテノミ單ニ損害賠償ヲ要求スルコト()身體生命ニ危害ヲ受ケサル場合ハ責任者处罚ノ要求ハ當ヲ得ス)四更ニ首席領事ヨリ交渉員ニ宛テ領事団會議ノ結果外国人ノ財產中損害アリタルコト明白トナ

リタルカ故ニ之ニ対シテハ各関係領事ヨリ夫々要求ヲ為ス
ヘク広東政府当局ニ於テハ其責任ヲ認メ速ニ解決ヲ計ラレ
タキ旨申入レ之ニ基キ各領事ヨリ各別ニ適當ノ要求ヲ為ス
コト等ニ意見ノ一致ヲ見タリ

十八日右ノ趣旨ニテ本官ヨリ交渉員ニ公文ヲ發セリ尤モ右
ハ單ニ意見ノ交換ニ止マリ何等各領事ヲ拘束スルモノニア
ラス

往電第二六〇号本邦人被害ニ関シテハ既ニ十六日朝胡漢民
ニ會見ノ際嚴重注意ヲ喚起シ更ニ後日公文ヲ以テ交渉スヘ
キ旨申入レ置キタル処前記各領事ノ意向ニ鑑ミ直接損害ニ
対シ当地官憲ニ賠償ヲ要求スルト同時ニ北京ニ於テモ御交
渉アラムコトヲ希望スル處折返シ何分ノ儀御回訓ヲ請フ
在支公使ヘ転電セリ

五三〇 十月十八日 在広東天羽總領事ヨリ
幣原外務大臣宛（電報）

広東戰禍ニヨル邦人ノ被害状況ニツキ報告ノ件

第二七四号
(十月十九日接受)
十八日迄ニ届出アリタル邦人被害左ノ如シ

五三一 十月十八日 在広東天羽總領事ヨリ
幣原外務大臣宛（電報）
広東動乱ニヨル損害並ビニ商團側ノ敗因ニツ
キ報告ノ件

第二七八号
(十月十九日接受)
今回動乱ノ損害ニ付テハ種々ノ説アリ確知シ得サルモ各方面
面ノ情報ヲ綜合スルニ焼失家屋約七百、戦死軍人約三百
人、火災及掠奪ニ依ル損失三千万乃至四千万元ノ処ナルヘ
シ商團ノ敗因ハ（政府カ不意ニ客軍ヲ動員シテ小銃以外大
砲機関砲及爆弾ヲ使用セシコト）商團カ内外ニ援助ヲ得ス

孤立トナリシコト（銀行及商業ノ中心ニ放火セラレシコト

等ナリ日下商團ハ郊外ニ集リ陳炯明軍又ハ地方商團ト策応
広東攻撃ヲ計画シツツアリトノ風説伝ハリ市内ハ依然恐怖
ノ状態ニテ連日沙面ニ家財ヲ運ヒ来リ沙面モ亦混雜ヲ呈ス
ルニ至リタル為メ沙面當局ハ商品家具ノ搬入ニ制限的規則
ヲ設ケタリ十四日吳鉄城公安局長ニ就任セリ

公使ヘ転電済ミ
ノ件
第二八〇号
(十月二十一日接受)

五三二 十月二十日 在広東天羽總領事ヨリ
幣原外務大臣宛（電報）

広東政府對商團紛争ニ關スル件

本件ニ關シテハ客月三日付機密公第一一三号「ハグ号積載
武器ニ關スル件」拙信報告ニテ既ニ御承知ノ通リ雲南軍范
石生及ヒ廖行超ノ斡旋ニ依リ八月二十九日六ヶ条ノ解決條
件ニ調印ヲ了シ同三十日全市ノ商店一齊ニ開市復業シテ表
面上ハ一先落着ヲ告ケタルモ政府ハ右解決条件中最重要な
ル武器返還ノ約束ヲ實行セサルカ故ニ（商團側ノ発表ニ依
レハ政府ハ商團注文武器中小銃四千挺ヲ既ニ処分シタレハ
之ヲ引渡スコトヲ得サルニ更ニ商團ニ對シ三百万元ノ北伐
軍費ヲ要求セリト謂フ）商民側ニハ依然險惡ノ空氣漲り全
市再罷市説、范石生独立説、商團ノ政府顛覆説等種々ノ説
言蜚語盛ニ伝ヘラレタルカ商團側ニ在リテハ孫文北伐出征

メ広東市内商團ヲ始メ仏山、塘歩、西南、五眼橋等主要都
市ノ商團モ殆ト武装解除セラレタ由
公使電済

五三三 十月二十日 在広東天羽總領事ヨリ
幣原外務大臣宛

広東政府對商團紛争ノ経過ニツキ報告ノ件

九 広東軍政府関係 五三一 五三三

（一）吉川岩太郎（ブローカー）被害現銀及衣類等届出金額香
港銀約八百六拾弗、原因付近火災ニ紛レ兵士ノ掠奪
（二）李觀瀾（雜貨商、帰化人元支那人）被害家屋商品現銀衣
類等届出金額広貨約拾万武十七百元香港貨約參千四百弗、
原因類焼及火災ニ罹ル掠奪
右何レモ査定中

（三）右ノ外當館朝鮮人謀報者宿泊支那宿火災及掠奪ニ遭ヒタ
ル為家財全部焼失セルモ例ニ依リ問題ニセサル考ヘナリ
在支公使ヘ転電セリ

（一）吉川岩太郎（ブローカー）被害現銀及衣類等届出金額香
港銀約八百六拾弗、原因付近火災ニ紛レ兵士ノ掠奪
（二）李觀瀾（雜貨商、帰化人元支那人）被害家屋商品現銀衣
類等届出金額広貨約拾万武十七百元香港貨約參千四百弗、
原因類焼及火災ニ罹ル掠奪
右何レモ査定中

（三）右ノ外當館朝鮮人謀報者宿泊支那宿火災及掠奪ニ遭ヒタ
ル為家財全部焼失セルモ例ニ依リ問題ニセサル考ヘナリ
在支公使ヘ転電セリ

（三）右ノ外當館朝鮮人謀報者宿泊支那宿火災及掠奪ニ遭ヒタ
ル為家財全部焼失セルモ例ニ依リ問題ニセサル考ヘナリ
在支公使ヘ転電セリ

商並ニ省内各地商鄉團ト周密ナル連絡ヲ執リテ着々之カ準備ヲ為セリ即チ商團及商業連合会ノ諸代表ハ十月初香港ニ集リ陳派要人陳覚民、金章等ヲモ交ヘテ會議シ其結果同四日五日両日ニ亘リ仏山ニ於テ全省商鄉團代表協議會ヲ開催シ百三十余ヶ處ノ代表集リ十日ノ双十節ヲ機トンテ廣東全省各都市ノ總罷市開始ヲ決議シ八日廣東全省商業連合会ノ名義ヲ以テ極メテ巧妙ナル方法ニテ總罷市ノ伝單ヲ配布致候而シテ今回總罷市ノ目的ハ單ニ武器問題ヲ争フニ止ラス最近設立セラレタル湘濱桂三軍々需籌備處ノ撤廃ヲモ迫リ其態度頗ル強硬市内ニ不安ノ氣漲リシカ故ニ市長李福林ハ直ニ韶閣ニ在ル孫文ニ対シ武器返還並ニ該軍需籌備處ノ撤廃命令ノ發布ヲ建議シ其容レラルルヤ九日夕刻部下ヲ派遣シテ黃埔陸軍々官學校ニ抑留シアル商團武器ヲ運ビ來リ十日商團總公所ニ引渡シヲ了シ候是ヨリ先暫ク市街ヨリ姿ヲ潛メタル商團軍ハ双十節當日突如武裝市中ニ出動シテ警戒ニ當リタルカ該武器輸送中偶々双十節記念日祝賀トシテ反帝國主義宣伝ヲ為シツツ市中ヲ示威行列中ノ農工團軍学生隊ト衝突起リ商團ハ發砲シテ之ニ応シ工團軍七名即死シタルカ其死体ノ内ニハ甚タシク汚辱ヲ受ケタルモノアリ團長

施ト初メ爾余ノ工團軍百余名ハ武器護送ノ任ニ当レル李福林ノ軍隊ニ捕縛セラレ民團統率処ニ拘禁セラレタルカ故ニ工團軍ノ憤懣ハ極度ニ達シ事件ハ益々紛糾ヲ極ムルニ至候然ルニ聊カ增長ノ氣味アリシ商團側ハ其態度益々強硬トナリ十日更ニ商業連合会ノ名義ヲ以テ同日受領セルハ「マウゼル」銃二千一百四十九挺（不足額二千七百一挺）拳銃一千八百五十一挺（不足額一千一百余挺）彈丸十二万四千五百五十二発（不足額三百三十万発）ニシテ銃器ハ購入額ノ約二分ノ一二モ若カス弾丸ニ於テハ僅カニ十分ノ一二モ及ハサルヲ以テ右不足分ノ返還ヲ受クル迄罷市ヲ繼續スヘシトノ趣旨ノ伝單ヲ配布致候於是乎政府ハ愈々武力圧制ノ外策ナシト見做シ陸續戰地ヨリ召喚セル各軍隊ヲ以テ要処ヲ固メ十五日夕刻迄ニハ東路討賊軍許崇智、警衛軍吳鉄城、湘軍譚延闔、西路討軍劉震寰、北伐第二軍胡謙等ノ部隊夫々部署ニ就キ陣容全クナリタルカ是ヨリ先十四日政府側ト商團トノ間ニハ交渉行ハレタルモ商團側ノ態度案外強硬ナリシカ故ニ省長胡漢民ハ商團ニ対シ解散ノ佈告ヲ發シ次テ十五日午前二時ニ至リ政府軍ハ遂ニ總攻撃令ヲ下シテ同三時頃遂ニ戰端開カレ候銃声ハ十五日払暁カ最モ盛ニシ

テ間々砲声ヲ交ヘシカ各軍ハ開戦ト共ニ市内数ヶ處ニ放火

（各軍就中警衛軍ハ理髪業者ヲ始メ下級労働者ヲシテ放火セシメ放火シタルモノニ對シ銀八元ヲ給シタリト伝ヘラル）シタル為市内ハ恐怖ニ襲ハレタルカ同日午前十時頃ヨリ更ニ各軍兵士ノ掠奪行ハレ市内ハ名状ス可ラサル混亂状態ニ陥リ候

十五日夕刻ニ至リ商團軍敗退ノ為銃声ハ下火トナリタルモ掠奪ハ依然盛ニ行ハレ十六日朝ニ至リ火災ハ漸ク鎮火致候今回商團敗因ノ主ナルモノハ

（一）商團カ余リ增長シ実戦ノ経験ナキニ拘ラス背水ノ陣ヲ布キタルコト

（二）商團ハ香港ニ於テ陳派ト又仏山ニ於テ各地商鄉團ト相互策応ノ協商ヲ進メシニモ拘ラス意ノ如ク援兵来ラサリンコト

（三）政府軍ハ大砲機関銃等ヲ有スルニ反シ商團ハ之ナキコト

（四）市内ニ放火セラレタルコト

（五）最初商團側ニ在リテハ開戦セハ雲南軍范石生、廖行超ハ商團ニ荷担スルカ或ハ尠クトモ中立ニ出シヘシト信

一、死者

商團

滇 軍

約百余名

約十名

西路軍（劉震寰）

約十名

福 軍（李福林）

約二十名

九 広東軍政府関係 五三四 五三五

五五〇

東路軍（許崇智） 約二十名
警衛軍（吳鉄城） 約二百名
一般市民 不明（但シ多数ニ
非ラサル見込） 約三百六十名

合計
一、火災及掠奪総損害額約三千万元
右事変後政府ハ着々各地商団ノ武装解除ヲ行ヒ現在迄ニ広
州市ヲ始メ仏山、塩歩、五眼橋等省内各地ノ商団ハ大部分
所有武器ヲ没収セラレタル趣ニ有之候
右取敢ヘス及報告候 敬具

本信写送付先
在支公使 香港総領事 汕頭領事
五三四 十月二十四日 廣原外務大臣ヨリ
在広東天羽総領事宛（電報）
廣東兵變ノ損害要償ハ孫文側ト交渉シ成ルベ
ク地方限りニテ解決方並ビニ列國領事ノ意向
回電方訓令ノ件

第六四号 貴電第二七三号ニ閲シ
五三五 十月二十四日 在廣東天羽総領事ヨリ
幣原外務大臣宛
国民党東京支部ノ孫文代表李烈鈞ノ歓迎情況
ニツキ漢字紙ノ報道振り報告ノ件
付属書 右ニ閲スル十月二十四日付太平洋特刊要訳
公第一八〇号 （十一月八日接受）
大正十三年十月二十四日
在廣東
外務大臣男爵 币原 喜重郎殿
總領事 天羽 英二（印）

国民党東京支部ノ孫文代表李烈鈞歓迎会ニ閲スル件
国民党東京支部ノ孫文代表李烈鈞歓迎会ノ状況当地漢字新
聞ニ記載致居候条何等御参考迄ニ右要証及報告候ニ付御查
閱相成度此段申進候 敬具
本信写送付先 在支公使
(付属書)

李烈鈞歓迎ニ閲スル十月二十四日付太平洋特刊要訳

駐日国民党主催 協和歓迎会

（十月二十四日太平洋特刊要訳）

南方建國政府參謀部總長李烈鈞氏ハ本月三日東京着、東京
「ステーション・ホテル」ニ滞在セルカ同氏ハ今回大元帥
ノ命ヲ奉シ重大使命ヲ帶ヒテ渡日セルモノトテ連日留日各
團体ノ歓迎会甚々盛十数回ニ及ヘリ以テ駐日同胞ノ心情ノ
一斑ヲ察知シ得ヘシ茲ニ本月八日中國々民黨東京支部歓迎
大会ノ盛況ヲ略記ス

駐日中國々民黨東京支部ハ是日午後六時神田中華留日青年
会ニ於テ大会ヲ開キ中央執行委員会委員孫總理代表李烈鈞
翁心龍兩氏ヲ歓迎ス雨天ニ拘ラス多數ノ出席者アリ李翁
氏ハ費哲民、王思恭、劉憶九、鄭永炎等ニ迎ヘラレ六時三
日本トテモ亦一ノ帝国主義的國家ナリ依テ吾人ハ毫モ之ト
与スルノ必要ナシ今回ノ渡日ハ實ニ日本帝国主義トノ妥協
ヲ謀ラムカ為ニハ非スンテ即チ日本朝野ノ名士及各政党カ
吾國ニ對シ真ニ如何ナル意見ヲ有スルカヲ叩キ同時ニ日本
一般ノ国民心理ノ昂趨ヲ觀察シ以テ東方民族ノ团结ヲ固ク

シ極東ノ平和ヲ謀ラムカ為ナリ是今回渡日ノ唯一ノ任務ニ

シテ亦所謂其重大使命ナリ云々

次テ俞氏ハ

今回渡日ノ任務ニ就テハ已ニ李氏ヨリ述ヘラレタル通リナルカ聊カ現在支那ノ状況ヲ述ヘンニ目下ノ東南戦争ノ原因ハ実ニ昨年曹鋐ノ賄選及吳佩孚ノ武力濫用ニ基クモノナリ故ニ東北東南ノ戦争相次テ起ルト共ニ我北伐軍亦韶関ニ出征シ一挙江西ノ南部ヲ衝カントシ雲南ノ唐繼堯四川ノ熊克武モ亦現ニ機ニ乗シテ動カムトスルカ故ニ是等諸兵ハ不日武漢ニ於テ会同スルヲ得可シ翻テ廣東ノ陳炯明トノ問題ヲ見ルニ現ニ各方面ヨリ斡旋中ナルカ故ニハ相互ニ諒解成立スルヤモ計ラレス東江ノ問題モ亦一段落ヲ告ク可ク之ヲ要スルニ今回戦争ノ結果ハ全ク国民意志ノ帰趣スル処ニシテ誠ニ中国統一ノ絶好機会ナリ云々

ト述ヘ次テ諸々彼我ノ状況ヲ述ヘ午後十二時解散セリ

五三六 十月二十六日 在広東天羽総領事ヨリ
幣原外務大臣宛（電報）

商団事件ニ關シ廣東政府ニ損害賠償要求ニツ

キ申進ノ件

第二八六号 五六二
(十月二十七日接受)

貴電第六四号ニ閱シ

(一) 英國総領事ハ廣東政府ニ対シ賠償ヲ要求スルト同時ニ北京政府ヘモ交渉方在支公使ニ稟請スル由（往電第二七三号以後英人被害一件届出テアリ英國ハ支那人種ノ英人カ支那ニ於テ受ケタル損害ニ対シテハ主義トシテ賠償ヲ要求セサル方針ナル故此種損害アルモ問題トセサル由）米国（今迄ノ所米人被害二件判明セルカ尚増加ノ見込ミ尤モ此外支那人種米人ノ損害アリ未タ確定セサルモ此種損害ニ対シテハ多分賠償ヲ要求セサル積リナリト言フ）及仏國領事ハ各々其公使ニ訓令ヲ仰キテ決定スヘキモ私見トシテハ其後調査ノ結果廣東政府軍隊ニ依ル損害ナルコト明白トナリタルト寒効アル方法ヲ執リタキ為メニ先ス同政府ニ交渉シ満足ナル解決ヲ得サレハ北京政府ト交渉セントスル意見ニテ葡萄牙総領事ハ未タ確定セサルモ成ルヘク我方ノ態度ニ倣ヒタキ意向ヲ洩シ独逸領事ハ目下不在会見ノ機ヲ得ス各領事ハ何レモ損害調査中ニテ未タ本国政府ニ請訓ノ手続ニ至ラス從テ交渉ヲ為シタルモノナシ我方ハ其後支那商人ノ手許ニ在リシ日本人商品焼失シタルモノ一件届出アリ之モ

賠償ヲ要求スル積リ（二）往電第二七三号ノ如ク各領事モ略々同一歩調ニ出テシコトヲ希望スルモ各自自由ニ交渉ヲ開始スル筈ニナリ居ル所我方トシテ廣東政府ヲ相手トシテ交渉スルハ勿論ナルモ孫派ヲ謀反団体ト認ムルヤ否ヤノ問題（我方ニ於テ孫派ヲ謀反団体ト認メタルコトナキハ勿論ナルモ北京政府ヲ承認スル結果之ニ反抗スル団体ハ理論上謀反団体ト称セラルヘク領事會議ニ於テハ其意味ニテ謀反団体ト謂ヒシナリ）ハ別トシテ（ダイタル）事件ノ前例ニ倣ヒ正当ニ認メラレタル北京政府ニ對シ形式的トハ謂ヘ今回ノ損害事実ヲ通告シ置クヘキカト思考ス別ニ回電ナキ場合ハ貴電第六四号前段ノ御趣意ニ従ヒ可然取計フニ付御含ミ置キヲ請フ

公使ヘ転電セリ

五三七 十月二十八日 在広東天羽総領事ヨリ
幣原外務大臣宛（電報）

廣東政府ノ北京政變歎迎並ビニ今後ノ政局ノ

見通ニ関スル胡漢民ノ内話ニツキ報告ノ件

第二九〇号

（十月二十九日接受）

廣東政局ハ二十四日北京政變ノ吉報ニ接スルヤ直ニ市内ニ

九 広東軍政府関係 五三七

燐明若クハ商團軍ノ孫派反抗ノ氣勢ハ殺カルヘキヲ以テ一

般形勢ハ漸次孫派ニ有利ニ展開スヘク早クモ既ニ要人ノ間ニハ孫文今後ノ方針ニ就キ論議ヲ見ルニ至レリ左レト其ノ

論議モ又北方政局ノ推移ニツレテ動搖スヘク之カ決定迄ニハ幾多ノ曲折アルヘキカト思考セラル

北京、奉天、天津、上海ヘ転電セリ

五三八 十一月四日 在廣東天羽總領事ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

時局收拾ノタメ北上予定ノ孫文ノ主張ニツキ

汪兆銘内話ノ件

第二九六号

(十一月五日接受)

十一月四日汪兆銘來館時局ニ閔スル内話要領左ノ通り

(一)張作霖ヨリ十月三十日奉天発十一月三日廣東着孫文宛電報ヲ以テ段祺瑞連軍統帥トシテ近ク諸軍指揮ニ就ク旨通知アリタルニ付孫文ハ同日贊成電報ヲ發シタリ馮玉祥、王承斌、胡景翼、孫岳等ヨリハ十一月一日発ニテ孫文ニ對シ早速上京方ノ電報アリ又許世英ハ十月三十日上海ヨリ天津ニ向ケ出発ノ際孫文ニ対シ早速来津段祺瑞ト会商

(イ)孫ハ政権ニ接近スルノ意志ナシ

(ロ)孫ハ段、張ト争フノ意ナク終始友誼的關係ヲ保持ス

(ハ)公然国民党党議ヲ宣伝ス

(二)各地黨員ニ此際政権ニ接近セス且馮、張諸軍ヲ友軍ト看做スヘキ旨訓令ス

等ニシテ要スルニ孫文ハ段、張兩人ヲ擁護スルト同時ニ又段、張兩人モ孫文ノ主張ヲ尊重セムコトヲ期待スルモノナリ(汪ハ特ニ此項極秘ニ願フト念ヲ押ス)

(三)十月二十四日付天津ヨリノ密書ニ拠レハ或一部ニハ最初ハ委員制ヲ用ヒ段祺瑞、王士珍、唐紹儀等ヲ委員トシ後段ヲ大元帥ニ舉ケムトスル計画ヲ有スル如キモ自分ハ民国十一年以来孫文ノ命ヲ奉シ奉天ニ五回天津ニ三回使シ

ハ何物モ犠牲ニシテ張段ヲ擁護シ其ノ統一ヲ助ク可シ從テ

民党政議ニ於ケル唯一ノ要求ハ政党ノ自由結束及運動ヲ承認セシムルコトニ在リ日本ハ今回ノ内乱ニ対シ不干涉主義ヲ標榜セルカ支那ノ統一ハ日本年来ノ希望ナレハ統一ノ機運ニ向ヒタル今日ハ之等統一ヲ援助センコトヲ希望ス云云

孫文及諸要人ノ談話ヨリ綜合スレハ孫派ハ張段ヲ助ケルト同時ニ民党政議ノ自由宣伝ノ保障ヲ取付ケ今後暫ク党内ノ結束ト党務ノ拡張ニ力メントスルニアラサルカ

公使、奉天、上海、漢口ニ転電セリ

第二九七号 (十一月六日接受)

五日清水副領事紹介ノ為孫文ヲ訪ヒシニ孫文ハ時局ニ言及

シ旁々其ノ希望ヲ帝国政府ニ伝達方申出アリ要領左ノ如シ
北方諸將等ヨリハ時局收拾ニ關シ今後ノ政治方針ニ対スル
輿見ヲ求ムルト同時ニ北上ヲ促シ來レルモ彼等自身ハ未タ
何等具体的の意見ヲ表示セス今後ノ政治ハ張、段、馮、自分
始メ諸權力団体及人民代表ノ會議ニ依リ民意ニ従ヒ決定ス
ヘキナリ民党政議ハ未タ其ノ勢力充分ナラサルカ故ニ唯今政權ニ有り付カントスル考ナシ然レト此両三年隱忍党務ノ拡張ニ力ムレハ必ス其ノ時機来ル可シ故ニ我党ハ其ノ主義以外

方電報アリタルニ付承諾ノ旨返電シタリ

依テ孫文ハ今ヨリ約十日以内ニ自分(汪)、朱和中、邵元冲、黃昌穀等ヲ從ヘ先ツ上海ニ行キ次テ天津ニ赴ク予定ナリ(汪ノ依頼ニ依リ香港、上海間孫文一行ノ乗船トシテ只今十一月十四日香港発東洋汽船安洋丸ニ交渉中)

(乙)孫文ノ北上ハ段、張ト統一問題ヲ会商セムトスルニ在ル處其大体方針ハ

北京、奉天、天津、上海ヘ転電セリ

五三九 十一月五日 在廣東天羽總領事ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

民党政義以外ニツイテハ張、段ヲ擁護シ政 党ノ自由結束ト運動ノ保障ノミヲ承認セシム

ル考エナル旨孫文内話ノ件

第二九八号

(十一月八日接受)

往電第二九六号ニ閔シ高橋總領事ヲ通シ汪兆銘申出テ通春洋丸ニ孫文一行(三十二名)船室保留セリ乗込ミニ其他万事打合セハ目下香港滯在中ノ伍朝枢カ交渉ノ筈右或ハ変更アルヤモ計ラレサルモ七日ノ廣東政府機関紙ニ日本領事ノ招待ニ依リ春洋丸ニ決定セリナト宣伝的ノ記事ヲ見受クルニ

付為念

在支公使、奉天、天津、上海へ転電シ香港へ暗送セリ

五四一 十一月七日

在上海矢田總領事ヨリ
幣原外務大臣宛（電報）

五国領事會議ニ於テ上海ニ到着予定ノ孫文等

二対スル措置振リニツキ協議ノ件

別電 同日在上海矢田總領事發幣原外務大臣宛電報第四〇二号

○一 五国領事會議ニ於テ孫文等ノ措置振リニツキ各自
國公使ニ電報スルコトニ決シタル内容ノ件

（十一月八日接受）

孫文當地經由北上スヘシトノ報道ニ対シ十一月七日ノ「デ
リリー・ニュース」ハ社説ヲ掲ケ同人ノ如キ陰謀術策ヲ生
命トル平和破壊ノ常習犯ニ対シテハ断シテ租界ノ地ヲ踏
マシムヘカラスト論シタルヲ以テ英國領事ヨリ何等申出ア
ルヘシト予期シ居タルニ果シテ同領事ノ要求ニ依リ七日午
後五国領事會議ノ緊急會議開催セラレタルカ議論決セサリ
シヲ以テ結局別電第四〇二号ノ通り各自國公使ニ電報スル
コトニ纏マリ散会セリ右電報中ニ吳佩孚ノ名ヲ加ヘアルモ
右ハ特ニ本官等カ指摘シタル結果ニシテ同人ノ上海ニ来ル
右ハ特ニ本官等カ指摘シタル結果ニシテ同人ノ上海ニ来ル

コトヲ予期シタル次第ニハアラス此運動ノ根柢ハ孫文ノ排
英米思想ニ対スル強キ反感ニ在ルコトハ申迄モナシト存ス
在支公使ヘ転電セリ

（別電）

十一月七日在上海矢田總領事發幣原外務大臣宛電報第四〇二
号

五国領事會議ニ於テ孫文等ノ措置振リニツキ各自國公使ニ電
報スルコトニ決シタル内容ノ件

第四〇二号

五国領事ハ十三日當地到着ノ筈ナル孫文並ニ当地ニ来ルコ
トアルヘキ吳佩孚ニ対シ如何ニ措置スヘキカラ議シタル結
果左ノ通り決定セリ

若シ外交團ニ於テ内乱進行中何レノ派ノ首領タルトヲ問ハ
ス彼等ノ外国租界ニ入ルコトヲ拒否スル旨声明シ且其旨関
係アル人々ニ直接通告スルコトヲ得ハ甚タ結構ナルヘク當
領事團ニ於テ孫及吳ヲ拒否スルヲ得ヘシ而シテ一旦租界ニ
入りタルモノヲ追放スルコトハ租界ニ入ルコトヲ拒否スル
ヨリモ遙カニ困難ナルヲ以テ右措置ハ之ヲ至急取扱フ様希
望ス右措置ハ同時ニ仏租界ニ在ル何豈林ニ対シ退去ヲ懲通
シツツアル仏國總領事ノ措置ヲ容易ナラシメ且共同租界ニ

隠レ居ル他ノモノニ対シテモ其当事者ヲシテ同様ノ措置ヲ
執ルコトヲ可能ナラシム
公使ヘ転電セリ

五四一 十一月十日

在中国芳沢公使ヨリ
幣原外務大臣宛（電報）

外交団會議ニ於テ孫文ニ対シ外国居留地内ノ

活動又ハ之ヲ陰謀ノ策源地トナサザルヨウ警
告方一致ノ件

第一一五六号

本使発在上海總領事宛電報

第七二号

貴地首席領事ヨリノ請訓ニ基キ十日外交団會議ニ於テ本件

ヲ討議シタルカ英國公使ハ吳佩孚ノ場合ハ問題トスルノ要
ナキモ孫文ニ就キ其上陸ヲ拒ムハ彼ノ目的タル北上ヲ阻止
スルモノトシテ惡宣伝ノ材料トナルヘキ虞アリテ面白カラ
ス寧口上海ノ中立ヲ維持スル見地ヨリ孫文ニ対シ外国居留
地ニ於テ活動シ又ハ之ヲ陰謀ノ策源地ト為スヘカラサルコ
トヲ警告スルノ程度ニ止ムル可トスヘシト述ヘ本使其他

参考ノ為香港ニ転電アリタシ

大臣宛貴電第三〇〇号ニ閑シ

第一一六二号

本使発在廣東總領事宛電報

第二九号

外交団トシテハ孫文ニ対シ上海上陸ヲ拒絶スルカ如キコト
ナク單ニ外国租界ニ於テ活動シ又ハ之ヲ其陰謀ノ策源地ト
為スヘカラサルコトヲ警告スルニ止ムルコトトナリ居ルニ
付右様御含ノ上孫ニ対シテハ上陸拒絶ノコトニ外交団ニ於
テ決議シタリトハ信セサル旨説明シ置カレタシ

外務大臣へ転電セリ

公使転電ス

五四四 十一月十三日 在広東天羽総領事ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

孫文ノ時局ニ閑スル宣言要領報告ノ件

第三〇二号 (十一月十四日接受)

十三日孫文ハ国民党總理ノ名ヲ以テ時局ニ閑スル長文ノ宣

言ヲ發表シタカ其要領ハ左ノ通り

曩ニ国民党第一回大会ニ於テ三民主義ニ基キテ制定シタ綱領ハ所謂最大綱領(maximum programme)ナルカ現下ノ時勢ニ応シ茲ニ最小綱領(minimum)ヲ宣言スル右最小綱領ニ於テハ其對外政策ハ不平等條約改訂ヲ主眼トシ対内政策ハ中央政府ト地方政府トノ権限ヲ確定シ(脱)權ヲ以

テ自治政治ノ基礎トスルニ在ル国民党ハ国民党ラシテ軍閥ト帝国主義トノ脅迫ヨリ逃レシメ且國家ノ統一及改造ヲ計ラム力為国民會議ノ招集ヲ提倡スルカ国民會議ニ先チテ先ツ

予備會議ノ開催ヲ主張スル而シテ右會議ニハ何レモ農工商各團体教育各團体学生代表反直各軍各政党代表等參加スヘ

ク国民党ハ右予備會議ニ最小綱領ヲ付議シ国民會議ニ最大綱領ヲ提議シ之カ實現ニ努メムトスルノテアル云々

五四五 十一月十四日 在香港高橋総領事ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

孫文一行ハ砲艦永豊ニテ香港着、直ニ春洋丸

ニ移乗シ上海向ケ出発ノ件

第一二二号

孫文氏十四日午前七時砲艦永豊ニテ香港着東洋汽船会社ヨリ差廻セル汽艇ニテ直ニ春洋丸ニ移乗「サルーン」ニ於テ見送ノ為出向キタル各種労働団体代表者数百名ニ対シ一々丁寧ニ会釈シ正午上海へ向ケ出発セリ

公使、天津、上海、奉天、廣東へ転電

五四六 十一月十四日 在広東天羽総領事ヨリ
幣原外務大臣宛

孫文ノ北上出発ニ当り發表セル声明ニ閑スル

件

公第一九八号 (十一月二十九日接受)

大正十三年十一月十四日

在広東

付属書 右声明要訳

公第一九八号

(十一月二十九日接受)

十一月十五日孫文北上出発ノ際發表シタル時局ニ對スル声

得タリト雖モ革命ノ目的達成ハ外國帝国主義ニ依テ擁護セラレタル支那軍閥ノ為ニ妨礙セラレタリ、爾來十三年屢々軍閥ノ更代ヲ見タルモ袁世凱ヨリ曹錕、吳佩孚ニ至ル迄軍閥其者カ常ニ反革命ノ傀儡トナリタル点ニ於テハ其軌ヨーニス、故ニ北伐ノ目的ハ啻ニ軍閥ヲ推倒スルノミナラス更ニ進ンテ軍閥ノ倚頼スル帝国主義ヲ撲滅スルニ在リ、国民革命ノ目的モ亦軍閥ト帝国主義ヲ倒スニ在リ

吾人ハ国民党第一次全国代表大会ノ宣言ニ於テ民族、民權、民生ノ三民主義ヲ基本トスル最大綱領ヲ制定シタリ、サレト今ヤ現下ノ時勢ニ適応セムカ為茲ニ最少限度ノ政綱ヲ制定セムトス、我最小綱領ニ於テハ其對外政策トシテハ

帝國主義的國家カ支那ヲ準植民地ノ地位ニ陥レタル借款条件ヲ取消サンメ其對内政策トシテハ中央政府ト地方政府トノ権

限ヲ画定シテ國家ノ統一ト省ノ自治トヲシテ相互ニ妨礙スルコトナク各々其發達ヲ遂ケシムルト同時ニ県ヲ自治單位トシテ民權扶植ノ基礎ヲ鞏固ニシ且全力ヲ以テ人民ノ自由ヲ保障シ農工商業團体ノ發達ヲ輔助シ經濟教育ノ狀況改善除ヲ叫ハサルヲ得ス、顧レハ辛亥革命ハ滿州專政ヲ倒壊シ

本信写送付先
在支公使、奉天、天津、上海各總領事

(付屬書)

孫文ノ声明要訳

孫文ノ時局ニ對スル声明大意

吾人ハ本年九月十八日北伐ノ目的ニ閑スル声明中ニ於テ國民革命ノ目的ハ國民ノ利益ノ為ニ独立自由ナル國家ヲ建設スルニ在ルコトヲ指摘シタリ、而シテ此ノ目的達成ノ為ニハ支那ヲシテ列強ノ植民地タラシメムトスル帝國主義ノ排除ヲ叫ハサルヲ得ス、顧レハ辛亥革命ハ滿州專政ヲ倒壊シ

ケル帝国主義的勢力ハ遂ニ消滅シテ國家ノ独立自由ハ保障
サルヘク又其対外政策ニシテ実現セラレム乎軍閥ハ絶滅シ
テ再興セス民治ノ基礎ハ动摇スルコトナカルヘシ、是豈支
那ニシテ國際的平等ノ地位ニ進メハ國民ノ産業及財政ハ充
分ニ発達ス可ク(一)産業及財政ノ發展ハ農村ノ經濟ヲ振興シ
農民ノ生計ヲ改善セシム可ク(二)産業發展ノ結果ハ労働者階
級ノ團結力ヲ進メ其生活狀況ヲ向上セシム可ク(四)農工業ノ
發展及労働者向上ノ結果ハ人民ノ購買力ヲ増進シ商業繁盛
ノ動機ヲ与フ可シ(五)於是國民ノ産業及財政ノ發展ハ惹テ文
化及教育等ノ諸問題ニ影響スル処歟カラサルヲ知ル、即チ
經濟ノ發展ハ智識能力ノ需要ヲ增加シ國家富力ノ増殖ハ文
化事業及教育ノ經費支弁ヲ容易ナラシメ智識階級ノ失業失
學ノ諸問題モ方ニ解決ノ端緒ヲ得ヘシ(六)不平等條約ノ廢除
ニ因リテ支那國內ノ法律ハ更ニ能ク全國領土ニ普及シ得ヘ
ク又全國ノ租界ヲ完全ニ廃止シテ後始メテ陰謀破壞ヲ事ト
スル反革命勢力ノ根源ヲ絶チ得ヘシ、以上ノ各項ハ凡ソ國
民タルモノハ其ノ實業家タルト農民タルト労働者タルト學

ノナリ、蓋シ旧時代ノ武力ハ帝国主義ニ利用セラルモノ
ニシテ新時代ノ武力ハ國民ノ利益ヲ擁護シ其障礙ヲ掃尽ス
ルモノナリ、吾人ハ以上ノ事由ニ基キ時局ニ對スル國民會議
ヲ召集シ以テ支那ノ建設ト統一トヲ謀ラムコトヲ主張
ス、而シテ右國民會議召集前先ツ一予備會議ヲ召集シ國民
會議ノ基礎条件及ヒ召集期日、選舉方法等ヲ決定セムコト
ヲ主張ス、而シテ予備會議ハ一、現代實業團体二、商會三、
教育會四、大學五、各省學生連合會六、工会七、農會八、
反曹吳各軍九、政黨等ノ諸團體代表ヲ以テ組織ス、是等各
團體ノ代表ハ各團體ノ機關ヨリ派出スヘク會議ヲ迅速ニ成
立セシメムカ為ニ成ル可ク少數トス可シ、國民會議ヲ組織
スル團體ノ代表ハ予備會議ト同シキモ其代表ハ各團體ノ團
員ヨリ直接之ヲ選舉シ人數ハ予備會議ヨリモ多數ナル可
シ、全國ノ各軍ハ皆同一方法ヲ以テ代表ヲ選舉シ國民會議
ニ列席セシムルコトヲ得、會議前各省ノ政治犯ハ全部赦免
シ且地方ノ團體及人民ハ選舉提案宣伝及討論ノ自由ヲ保障
セラルヘシ、吾人ハ國民革命ニ尽瘁スルコト茲ニ三十餘年
ニ垂ントスルモ未タ本党ノ主張ハ充分ニ國民ノ了解ヲ得サ
ルナキヤヲ憾ム、只吾人ハ國民ノ自決ハ國民革命ノ要道タ

者タルトニ論ナク皆其ノ切要ヲ感セサル者無ク共同奮闘シ
テ之カ實施ヲ努メサル可ラサルニ國民以來十三年帝國主義
ト軍閥トハ互ニ結合シテ之カ進行ヲ阻止シタリ、我北伐ハ
實ニ此ノ障礙ヲ駆除セムカ為ニ起リタルモノナリ、曩ニ袁
世凱ハ帝政ニ失敗シ今又吳佩孚ハ武力統一ノ夢破レ茲ニ吾
人ハ帝國主義ト結合スル武力ハ失敗セサルナク國民ト結合
シテ國民革命ノ進行ヲ促スモノニシテ勝利ヲ得サルナシト
ノ実証ヲ得タリ爾後吾人ハ國民革命ノ新時代ヲ画シ帝國主
義ト結合スル武力ヲ永久ニ掃尽シ之ニ代フルニ先ツ武力ヲ
國民ト結合セシメ次ニ武力ヲ國民ト結合ノ端緒ハ現レタ
可シ、然ルニ今ヤ既ニ武力ト國民トノ結合ノ期シ之力進歩ニ尽力セ
リ、於是乎吾人ハ此ノ結合ノ確実ヲ期シ之カ進歩ニ尽力セ
サル可ラス而シテ武力ヲ國民ト結合セシムルニ二途アリ、
其一ハ時局ヲ國民ノ求ムル處ニ從テ發展セシムルコトニシ
テ其結果國民ハ從前各派ノ利益分有権利壟斷ノ罪惡ヲ一掃
スルコトヲ得ヘシ、其二ハ國民ヲシテ自ラ求ムル處ヲ選択
セシムルコトニシテ其結果國民ノ需要ハ充分表現セラレ從
来各派カ独占シ群衆ヲ無視シタル罪惡ヲ一掃スルヲ得ヘ
シ、以上二者ハ國民革命ノ新時代ト旧時代トノ区画タルモ

ルヲ確信スルカ故ニ吾人ノ主張スル國民會議成立ノ曉ハ本
黨第一次全國代表大會宣言ニ列舉スル政綱ヲ之ニ提出シ國
民ノ徹底的ノ了解ト贊助トヲ得ムコトヲ期ス、終ニ臨ミ吾
人ハ熱誠ヲ以テ國民ニ對シ「國民ノ運命ハ國民ノ自決ニ在
リ本党若シ能ク國民ノ援助ヲ得ハ則チ中國ノ獨立自由統一
等ノ目的ハ必ス完全ニ達成セラルヘシ吾國民宜シク奮起セ
ヨ」トノ警告ヲ与ヘムト欲ス

中華民國十三年十一月十日

編註 右聲明要訳ハ在廣東日本總領事館作成ノモノナリ
（一）這回孫文ノ北上シタルハ廣東ニ於テ孫陳相對峙シ居ル現
勢ニモ促サレタルモノナリ何トナレハ若シ孫ニシテ北方

派ニ対シ駄々ラ捏ネ居ル時ハ北方派カ陳ヲ援助スルニ至

孫文ノ北上並ビニ陳炯明ト商団軍トノ關係二
ツキ陳代表内話ノ件

第一二三号

陳炯明ノ代表金章十一月十七日本官ニ語リテ曰ク

（一）這回孫文ノ北上シタルハ廣東ニ於テ孫陳相對峙シ居ル現
勢ニモ促サレタルモノナリ何トナレハ若シ孫ニシテ北方

派ニ対シ駄々ラ捏ネ居ル時ハ北方派カ陳ヲ援助スルニ至

ラムコトヲ怖ルルカ故ナリ

(一)陳炯明ハ一両日前汕頭ニ著セリ是部下諸将ノ不和ヲ押ヘ
ム力為ナリ而シテ陳ハ福建ニ延ヒムカ廣東領奪ニ力ヲ致
スヘキヤ目下評定中ナリ

(二)商團軍ノ陳廉伯一派カ陳トノ軍資調達ノ為香港ニ於テ富
鐵ヲ發行セムトシタルモ政厅ノ為差止メラレタリ

何等御参考迄

北京、天津へ転電シ廣東へ暗送セリ

五四八 十一月十九日 在上海矢田總領事ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

孫文ノ上海到着後ノ言動並ビニ日本經由北上

シタキ意向ノ旨報告ノ件

第四〇九号

孫文一行三十名十一月十七日春洋丸ニテ吳淞ニ着シ別仕立
ノ小蒸氣ニテ出迎ヘタル五十余名ノ同志ト共ニ仏租界ニ上
陸シタルコト並東方通信ヲ通シ當地英國側ニ対シ露骨ナル
挑戦的声明ヲナセル次第ハ同通(信?)ニテ御承知ノ通り
ナル處十八日ノ「デーリー・ニュース」「チャイナ・プレ
ス」共ニ右東方通信ヲ掲ケ前者ハ何等論評ヲ加ヘサルモ後

北京、奉天、天津、漢口、廣東へ転電セリ

五四九 十一月二十日 富永長崎県知事ヨリ
幣原外務大臣他宛

北上中ノ孫文一行ノ顔触レニツキ報告ノ件

外高秘第七七一五号 (十一月二十四日外務省接受)
大正十三年十一月二十日

長崎県知事 富永 鴻

内務大臣 若槻 礼次郎殿

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿

指定府県長官殿

孫文ノ北上ニ關スル件

本月十九日午前八時香港ヨリ上海經由當地ニ入港セル汽船
春洋丸ノ事務長佐々木憲正ノ談ニ依レハ孫文夫妻ハ左記ノ
通り多數ノ從者ヲ伴ヒ香港ヨリ春洋丸ニ乗船シ上海ニ於テ
李烈鈞ノ出迎ヲ受ケ下船シタルカ同地ヨリ海路天津ニ到リ
更ニ北京ニ赴ク予定ナル旨ヲ洩シ居タル趣ニ付御参考迄及
申(通)報候也

記

文部大臣

秘書官長

廣東大學教授

廣東教育課長

秘書

汪精衛

韋玉

邵元沖

陳耀祖

黃昌穀

及夫人

同

在上海

公信第九六五号

付屬書

十一月二十一日 在上海矢田總領事ヨリ
幣原外務大臣宛

(接受月日不明)

右談話要領

大正十三年十一月二十一日

総領事 矢田 七太郎(印)

者ハ孫文ハ政治家ニシテ右奇矯ノ言論モ一種ノ宣伝ニ過キ

サレハ之ヲ眞面目ニ取上ケテ論難スルニ及ハサルヘシトノ
趣旨ノ社論ヲ掲載セリ又共同租界當局ハ私服警察官ヲ春洋
丸ニ派シ孫ノ言動ヲ監視セシメタル由仏租界ニ於テハ多数
ノ青年男女埠頭ニ迎ヘタルノミナラス孫ノ住宅ヲ取囲ミ歎
呼シタルヲ以テ孫モ之ニ応シ出テテ一場ノ演説ヲナシタル
趣ナリ尚孫文上陸後間モ無ク汪兆銘、戴天仇相携ヘテ本官
ヲ來訪シ孫ノ来滬ニ関シ本官ノ取リタル公平ナル措置ニ対
シ不敢孫ニ代リテ謝意ヲ表スル旨ヲ述ヘ翌十八日李烈鈞
來訪シ孫近日北上スル積リナルカ安全経路トシテ本邦ヲ經
由致シタシ何レ確定次第本官ノ配慮ヲ仰ク旨ヲ述ヘ引取り
タリ

北京、奉天、天津、漢口、廣東へ転電セリ

五四九 十一月二十日 富永長崎県知事ヨリ
幣原外務大臣他宛

北上中ノ孫文一行ノ顔触レニツキ報告ノ件

外高秘第七七一五号 (十一月二十四日外務省接受)
大正十三年十一月二十日

長崎県知事 富永 鴻

同 同 同 参謀

第三軍司令官

同 同 同 護衛

同 同 同 謀

喻毓西 朱和中

鄧彥華 趙超

盧鍋鄉

馬湘華

張乃恭

黃惠龍

黃乃恭

馬超

張乃恭

外十七名

同

同

同

付屬書

十一月二十一日 在上海矢田總領事ヨリ
幣原外務大臣宛

上海ニ於ケル孫文ノ新聞記者ニ對スル談話要

外務大臣男爵 横原 喜重郎殿

上海情報送付ノ件

十一月二十日付上海情報第一〇六号以別紙及御送付候条御
査閱相成度此段申進候 敬具

(付属書)

十一月二十日付上海情報第一〇六号

孫文ノ新聞記者ニ対スル談話要領

上海情報第一〇六号

大正十三年十一月二十日

孫逸仙ノ新聞記者ニ対スル談話要領

十一月二十日支那紙報道ニ依レハ目下滯滬中ナル孫逸仙ハ

十一月十九日当地日支新聞記者ノ重ナルモノヲ其仮寓ニ招待シ英國側批難ヲ骨子トセル大要左ノ如キ談話ヲ為シタル趣ナリ

一、北行ノ目的 余今回ノ北方行ニ就テハ既ニ宣言ヲ以テ発表セルカ其最モ重要ナルハ国民會議ナリ国内既成ノ各團体ノ代表者ヲ以テ組織セントスル此国民會議ニ対シ或

ハ其空疎ニシテ実力無キカ為メ武力把持者ノ贊成ヲ得ル能ハサルヘシト疑フモノアルヘキモ此点ニ闕シテハ余ハ充分ニ責任ヲ負フヘク彼等ニシテ若シ贊同セサル場合ニハ余ハ彼等カ今回曹錕、吳佩孚ヲ倒フシタルハ曹吳兩人ノ業ヲ繼カンカ為ミニ過キサルモノナリト天下ニ宣布スルヲ得ル次第ニテ曹吳推倒ノ功績ニ対シ相当ノ報酬ハアルヘキ筈ナルモ若シ天下ヲ私セントスルモノアラハ余ハ極力反対スヘシ蓋シ武人ノ政治ハ攘奪相繼キ已ム時無ク國家ハ結局治マリ得サルナリ

一、支那ノ現状 民國前途ノ治乱ハ国民會議ノ成績如何ニ係リ廃督裁兵ノ如キハ開会後ノ問題ナルカ現在最モ注意ヲ要スルハ(一)人民生活ノ救濟(二)外交方面ノ挽救ノ二事ナリ

抑モ四億ノ同胞ハ現在殆ト国人ノ成語トナリ居ルモ是レ民國以前ノ統計ニシテ外國人カ食塩使用数量ニ依リ計算スル所ニ拠レハ支那ノ人口ハ一昨年ニ於テ三億一千万ニシテ昨年ハ三億ニ達セス即チ此十年間ニ於テ一億ノ人口減少ヲ見タルハ十参年来ノ戰争ニ起因スルモノニテ若シ戰争ノ止ムコトナクンハ支那ハ真ニ亡國滅種ノ憂アリ尤リ

モ右ハ兩軍對陣ノ直接死亡者以外毎度ノ戰役ニ因リ田圃ノ荒蕪家屋ノ破壊等ノ為メ餓死スルニ至レルモノヲモ含ム次第ナルカ此レ實ニ民生ノ大問題ナリ

對外方面ニ就テ言ヘハ支那ハ通商以来條約ノ不平等ニ因リ余リ独立的地位ヲ失ヒ各國ノ植民地ヨリモ尚低キ地位ニアリ朝鮮安南ノ如キハ日本又ハ仏國ノ植民地トシテ隸屬スト雖モ其主人ハ唯一國ニ止リ且皆相當ニ庇護ヲ与ヘラレ居ルニモ拘ラス支那ハ主人ノ數十余國ニ達シ年々災害アルモ何等救濟ノ方法ヲ講セラレサル狀態ニアリ少數ノ教會團体アリテ救恤ノ舉アリト雖モ形式的ニ過キス

一、外人側ノ主客顛倒 索ニ特記ヲ要スルハ余カ來滬ニ反

対セントシツツアリト語リタルカ余ハ上海ハ支那ノ領土ニシテ外人ハ僅カニ客タルノ地位アルニ過キス外人カ若シ飽迄モ余ノ行動ニ干涉セントスルニ於テハ余ニモ取ルヘキ方法アリト答ヘ置キタルニ本日某外字紙ハ『條約ハ神聖ナリ』トノ題下ニ論評セルカ條約トハ實ハ支那ノ身體売買契約ナリ余カ北京到着後國民會議ニ提出セントシツツアル第一ノ議題ハ一切ノ條約廢除租界及領事裁判権並ニ支那カ失ヒタル一切ノ土地ノ回収ニ關スル事項ナリ

テ袁世凱ヲ助ケテ革命黨員ヲ殺害セルカ今回吳佩孚ノ曾

九 広東軍政府関係 五五一 五五二 五五三

五六六

レテ塘沽ニ至ルヤ某国人ハ吳ニ対シ『長江一帯ハ我国ノ勢力内ニ在リ之ヲ根拠トシテ再度ノ発展ヲ謀ラレヨ』ト献策セリ故ニ吳カ今後又復支那ノ患トナルコトアラハ此某国人ノ仕業ナリ又廣東商團事件ノ如キモ同シク某国力挑発獎励セル結果發生セルモノニシテ軍閥ヲ亡ホス為メニハ先ソ之ヲ支持スル帝国主義ヲ倒ササルヘカラス義和團ノ役モ外人ノ分割説ニ起刺激セラレテ起リタルモノナルニ至レルモノニテ南ニ於テ陳廉伯ヲ助ケ北ニ於テ曹吳ヲ助ケタルハ皆是レナリ

カ外人ハ其後支那人ノ侮ルヘカラサルヲ知リ自ラ手ヲ下スヲ避ケ支那人ヲ利用シテ支那分割政策ヲ実行セントスルニ至レルモノニテ南ニ於テ陳廉伯ヲ助ケ北ニ於テ曹吳本信写送付先 在支公使、廣東、奉天、天津、漢口
各總領事

以上

五五一 十一月二十二日 在中国芳沢公使（ヨリ）幣原外務大臣宛（電報）

孫文ノ本邦立寄リノ理由ニツキ伊國公使ノ質問ト當方ノ回答振り報告ノ件

第一一九五号 上海發往電第四一〇号ニ關シ

拙電第四一〇号ニ關シ孫文ノ夫妻、戴天仇、李烈鈞、俞應龍等一行十一名、二十二日當地發上海丸ニテ日本ニ向ヘリ北京、天津、奉天、廣東ニ轉電シ漢口、九江へ暗送セリ

五五二 十一月二十二日 在上海矢田總領事（ヨリ）幣原外務大臣宛（電報）

孫文一行上海發本邦向ケ出發ノ件

第四一二号 在中國長崎縣知事（ヨリ）富永長崎縣知事（ヨリ）幣原外務大臣他宛

北上ノ途次本邦ニ立寄リタル孫文一行ノ動靜並ビニ邦人記者トノ會見模様ニツキ報告ノ件

外高秘第七七九八号 （十一月二十八日外務省接受）大正十三年十一月二十四日

長崎縣知事 富永 鴻

内務大臣 若槻 礼次郎殿

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿

陸軍大臣 宇垣 一成殿

海軍大臣 財部 彪殿

指定府県長官殿

連、大久保、立田各事務官殿

孫文一行寄港ノ件

孫文ノ本邦渡來ニ關シテハ本月二十一日相當保護ノ上便宜

供与スヘキ旨警保局長ヨリ電報アリ尚連事務官（貴官）ヨリモ寄港ノ通電アリタルカ一行ハ昨二十三日正午當地入港

ノ汽船上海丸ニ神戸ヘ上陸スヘク乗船寄港シタルヲ以テ本

県外事課長及水上警察署長出迎ヘ相當保護ノ上便宜ヲ供与

シタルカ在港中上陸セス同日午後五時出港ノ同船ニテ無異

状神戸ヘ向ヒタルヲ以テ警保局長及兵庫（貴）県ヘハ電報

シタリ一行ノ氏名及當時ノ状況ハ左記ノ通リニ有之候条此段及申（通）報候也

一行ノ氏名 記

広東政府大元帥 孫 文 五九
同夫人 三一
同大元帥副官陸軍上將 李 烈 鈞 四五
同大元帥副官陸軍大佐 馬 湘 三五
同 周 驚 山 四〇
同 史 耿 聰 賢 三六
同 大元帥秘書長 戴 伝 賢 三六
高級參謀陸軍中將 俞 詠 胆 四〇
參謀本部書記 曾 勇 父 三五
同 周 驚 山 四〇
大元帥參謀陸軍中將 戴 伝 賢 三六
李ノ副官陸軍少佐 俞 詠 胆 四〇
大元帥英文秘書 黃 芳 池 三四
同 田 賦 均 二八
李ノ副官陸軍少佐 黃 昌 穀 三五
大元帥秘書 黃 昌 穀 三五

右一行ノ渡來ニ關シテハ當地駐在支那領事館及在留有力者ニ於テハ之カ歡迎ニ付キ協議スル処アリ同船ノ岸壁ニ着スルヤ郭領事、王副領事、魏主事其他ノ館員（非公式）及各團体幹部及有力者並ニ留学生等（學生約三十名總テ支那國旗ノ手旗ヲ振翳シ）來船之ヲ出迎ヘタルニ孫文ハサロンニ

於テ之ニ面接歓迎ノ辞ヲ受ケ学生一同ニ対シ謝辞トシテ中華民国創造以来既ニ十三年トナレリ然ルニ其間数回内部ノ動乱アリテ国民未タ堵ニ安ンスルニ至ラス今亦動乱政変アリテ時局ハ收拾スル能ハサルノ状態ナリ之即チ軍閥政治ニシテ国民全体ノ政治ニアラサルカ故ナリ東洋ノ和平ヲ望ミ東洋民族ノ幸福ヲ維持センニハ日支親善ヲ図リ国民政治ヲ行ヒ以テ我国ノ統一ヲ圖ルニ在リト信ス余ハ是ヨリ天津ニ渡リ北京ニ赴キ国民大会ヲ開キ紛乱時局ヲ收拾統一スルコトニ努力スル考ナリ諸君ハ目下日本ニ在リテ勉学シ居レルヲ以テ大ニ研鑽怠ル処ナク学ヲ卒ヘテ國ニ帰リ我國民ノ模範トナリ大ニ國威ノ隆興ニ努力セラレンコトヲ望ム云々ト述ヘ尚当地留学生中ヨリ近ク北京ニ於テ開催セラルヘキ国民大会へ総代トシテ幾名カ出席スルコトニ尽力アリタシト要望シタルモ学生等ハ之ニ対シ確答ヲ為サス同船甲板上ニ於テ一同記念撮影ヲナシタリ而シテ在留民ニ於テハ歓迎会ヲ催ス答ニテ孫ノ上陸ヲ懇請シタルモ雨天ノ為メ上陸ヲ見合セ其厚意ヲ謝シタリ船中ニ於テ一行中ノ大元帥秘書戴伝賢（天仇）及高級參謀陸軍中將俞應龍（詠胆）カ孫文ニ代リ今次ノ渡来目的及支那ノ時局收拾策等ニ關シ本県

查証官ニ為シタル談話ノ大要左ノ如シ
孫文今回旅行ハ天津ニ於ケル巨頭會議列席ノ為ニシテ実ハ上海ヨリ直接天津へ渡航ノ筈ナリシモ目下同地行ノ鉄路順調ナラサルヲ以テ汽船ニ拋リシト日本ヲ經由セハ巨頭會議列席ニ先チ日本朝野ノ士ニ就キ支那ノ時局ニ関シ意見ヲ聽取スルコトヲ得ヘキヲ以テ本旅程ニ拠リタル次第ニシテ神戸ニハ孫文ト旧知ノ間柄ナル犬養毅氏其他多數知名ノ士ト會見シ得ラルヲ以テ今回ハ進ムテ政見ノ發表ヲ避ケ専ラ貴國朝野ノ人士ノ意見ヲ聽クコトニ努ムル筈ナリ孫文ノ抱懷セル支那ノ時局收拾策トシテ既ニ廣東及上海ニ於テ屢次声明シタル通リニシテ即チ軍閥ヲ倒シテ民族、民權、民生主義ヲ基本トシテ独立自由ノ國家ヲ建設シ以テ從來各派勢力ニヨリテ壟斷セラレタル國民ノ権利利益ヲ國民ニ帰セシメ對外政策トシテハ一方不平等條約及特權ヲ取消シ列強ヲシテ外債ヲ利用シテ支那ヲ植民地的地位ニ置ク能ハサラシムニアリ現下ノ支那ニ於ケル緊要問題ハ内政ヨリモ外交ニ在リ辛亥革命以來既ニ十三年ノ長年月ヲ経タルニモ不拘混亂ニ次クニ混亂ヲ以テシ平和ノ時ナキ原因ハ国内ヨリモ寧ロ国外ノ教唆ニ因ル処多ク之ナカリセハ恐ラク斯ク内

乱ノ続出スルコトナカルヘシト信ス近ク廣東ニ於ケル商團軍ノ武器事件又ハ今回吳佩孚ノ武力統一計画ノ如キ全ク列強ノ意思ニ動カサレタルニ因ル故ニ将来ハ絶対ニ外國ノ干渉ヲ排斥セントス今回天津ニ赴クモ孫文トシテハ直接政權ヲ握リ國政ヲ變理セントスル意思ヲ有セス只國民ノ地位ニアリ國民ノ代表者トシテ其利益ノ為メニ其抱懷セル理想ノ實現ニ努力スル考ニシテ茲半ヶ年若クハ一ヶ年位ハ北京ニ止マリ廣東ニ帰ルコトナカルヘシ廣東ニハ譚延闊ヲシテ統治ノ任ニ当ラシメ居ルヲ以テ後顧ノ慮ナシ吳佩孚ハ最近長江連盟ヲ策シ北方ニ対抗セントノ計画ヲ為シツツアル如キモ長江各省トテ目下ノ情勢ニ於テ斯ル計画ニ応スル筈ナカルヘシ云々

岸壁着船後同船サロンニ於テ秘書長戴天仇通訳ノ下ニ往訪ノ各新聞記者ト会見シ歓迎ニ対スル簡単ナル謝辞ヲ述ヘタル後新聞記者ノ質問ニ対スル応答ノ要領ハ

問 神戸ニ於テハ主トシテ如何ナル人士ニ会見セラルル筈

答 ナルヤ

問 同地ニハ旧知多キヲ以テ之等ノ人々ト会見スル筈ナリ

答 支那大局收拾ノ首班者ハ段祺瑞ナリヤ

問 最近貴國ノ共同管理説流布セラルルカ貴説如何

答 然リ段ニ依リテ處理セラルル筈ナリ

問 北京ニ於テハ外國ヨリ一億円ノ借款成立セリトノ噂アリ事実如何

答 実現セサルヘシ

問 現在ノ状態ニテ借款ノ必要ナキヤ

答 然ル事實ナシ

問 我國ノ政治ハ國民全体ノ力ニヨリテ之ヲ處理スヘキモノニシテ決シテ一部政治家及武人ノミニ依リテ處理スヘキモノニアラス故ニ内ニハ軍閥ヲ倒シ外諸國ノ干渉ヲ排斥ス国内政治ヲ行フニハ廣く國民會議ヲ起シ各方面ノ代表者ヲシテ政治問題ニ参与セシム

問 其理想ハ現下ノ貴國ニ於テ實行セラルル見込アリヤ

答 無論實行セラルヘキ信念ヲ有ス

問 我國ニ於テ十數年前清朝ヲ打破前ニ於テハ日本其他諸國殊ニ國內ニ於テモ之ヲ實現シ得ヘシトハ信セ

九 広東軍政府関係 五五三

五七〇

サリキ然ルニ事實ハ雄弁ニ之ヲ證明ス今回ノ直隸派タ

ル一大軍閥ヲ仆シタルモ國民ノ力ナリ将来ニ於テモ軍

閥ハ必ス國民ノ力ニヨリテ倒サルヘキモノト信ス一國

ノ政治ハ軍閥其他外國ノ力ニヨリテハ處理セラルヘキ

モノニアラスシテ實ニ國民ノ力ニヨリテノミ處理セラ

ルヘシスクアラサレハ平和ハ來ラス

問 清朝ノ礼遇廢止ハ當然ナリヤ

答 全國民ノ望ム処ナリ

問 統一策如何

答 國民會議ヲ起シ諸般ノ政治悉ク其決議ニ依リテ行フニ

アリ

問 其形式如何

答 予ノ宣言書ノ通り

問 近時廣東政府ハ親露ニ傾キ既ニ或ル制度ノ如キ彼レニ

倣ヘルモノアリト言フ事実如何

答 露支兩國ハ其ノ革命ナル事実ニ於テハ等シキ道途ヲ進ミタリ兩國ノ國際關係以外ニ於テ共ニ革命ナル道理一

致ス然レトモ兩國ノ政策ハ各々其ノ國柄ヲ異ニスルヲ

以テ之ヲ同ウセス

問 然ラハ将来如何

(答ヘス)

問 直隸ノ背後ニ英米ノ力潛メリト言フ之ヲ認ムルヤ

二歩トス従ツテ此考ヨリシテ露國ノ革命ト民國ノ革命

トヲ同一ノ感想ヲ以テ見ルカ故ニ此意味ニ於テ勞農露

國ト中華民國トカ一致スルヲ得ルモノナリ然ルニ日本

ノ國民カ日本ノ維新ト中華民國ノ革命トヲ同一ニ看做

ササルハ誤謬ナリト思惟ス云々

最後ニ孫カ喫煙室ニ於テ代議士西岡竹次郎ト戴天仇ヲ介シ

テ會見シタル孫ノ談話ノ大要次ノ如シ

現下ノ支那問題ヲ解決スルニハ其根本問題ヲ解決スルニア

リ根本問題トハ何ソヤト言フニ即チ亞細亞民族ノ結合之ナ

リ亞細亞民族結合シテ歐米人ノ压迫ヲ排除シ初メテ支那現

下ノ問題ハ解決スヘキナリ日本ハ明治維新ニヨリテ鎖国ヨ

リ開放シテ歐米ノ文明ヲ吸收シ日露戰爭前迄ハ非常ニ歐米

ニ屈從シタルモノナルカ日露及獨歐ノ戰役ヲ經テ五國又ハ

三国列強ト比肩シナカラ今尚ホ一二モ歐米ニニモ歐米ト余

リニ歐米ニ媚ヒ過キ亞細亞ヲ度外視シ過キタル結果ハ到底

歐米圧迫ノ羈絆ヲ脱スルコト能ハサルヘシ故ニ将来日本ハ
亞細亞民族連盟ノ霸者トナリ歐米ニ対抗スヘク亞細亞全体

ヲ連結シ亞細亞ノ独立ヲ図リ以テ歐州ノ圧迫ノ羈絆ヲ脱ス

ル様努メナル可ラス亦日本ハ須ラク労農露國ヲ速カニ承認

スヘシ仏國ノ如キハ旧帝政露國ニ於ケル巨額ノ國債ヲ拠棄

シ他ノ列強ニ先シ労農露國ヲ承認シタル其意奈辺ニアルカ

目下ノ日本ハ財政窮乏ノ秋ナリ一日モ早ク労農露國ヲ承認

シ國際關係ヲ円満ナラシムルハ最モ焦眉ノ急ナレハ貴下ノ

如キ日本要路ノ代議士等相謀リ政府ヲ督励シ露國承認ノ速

カナラムコトヲ圖ラルヘシ云々

追テ一行中ノ俞心麓、耿鶴生、曾勇父ハ當庁差廻シノ自

動車ニ外事課長ト同乗諭訪神社ニ參拝市内見物ヲ為シタ

リ

尚李烈鈞ノ洩セル處ニ依レハ孫文ノ日本立寄ノ可否ニ付上

海ニ於テ打合会ヲ開キタルニ此際日本ニ立寄ルハ英米ノ對

支感情ヲ害スルナキヤヲ憂慮シ反対説ヲ唱フル者アリシモ

孫文ハ英米ノ氣嫌ヲ窺フノ要ナシトテ今回ノ渡來ヲ断行シ
タルモノニシテ渡來ニ際シ上海ニ於テ英國汽船エムプレス
・オヴ・ルシャ号（十一月二十四日長崎入港）ニ乗船方ヲ

孫文來朝ノ件

孫文及夫人、參謀長李烈鈞、副官馬湘、同黃惠龜、中將俞

心麓、書記陳虞青、周鰲山、秘書耿鶴生、同戴天仇及從者

四名ノ一行ハ本月二十四日午後二時神戸入港ノ汽船上海丸

ニテ來朝シタルカ孫ハ船中ニ於テ訪問ノ新聞記者約三十名

ニ対シ戴天仇ノ通訳ニテ大要左ノ如キ談ヲ為セルカ午後三時半上陸當厅差廻シノ自動車ニテ神戸オリエンタルホテルニ入り（李烈鈞、耿鶴生、周鰲山ノ三名ハ洋室ヲ好マストテ榮町一丁目ノ田中屋旅館ニ投宿セリ）滯在中ナルカ本月三十日神戸港出帆予定ナル汽船北嶺丸ニテ天津ニ向ケ出發スル予定ナリ而シテ本日「孫文來朝説ニ対スル当地在留支那人ノ意向内査ノ件」ト題シ別報セル如ク当地在留廣東省人中ニハ商團軍関係ニヨリ孫文ヲ國賊視シ憤懣ノロ吻ヲ漏ス者尠カラサル模様ナルヲ以テ万ーラ慮リ特ニ私服警察官數名ヲ配シテ身辺ノ保護並視察ニ從事セシメツツアルカ一行着船ノ際ハ當地支那正副領事在留有力支那人支那小学校生徒中國国民党東京支部員（十七名）大阪商工学生（五名）等支那人約五、六百名、衆議院議員古島一雄、高見之通、望月小太郎、森田金造、砂田重政、元代議士萱野長知、菊地良一、神戸商業會議所員孫文顧問井上謙吉、新聞記者等約百余名ハ一行ヲ埠頭ニ出迎ヘ中ニモ支那人等ハ「中國国民党万歳」「歓迎孫總理」「中華民国万歳」等ノ旗ヲ打チ振り万歳万歳ト唱和シテ氣勢ヲ揚ケタリ

尚孫文ハ本月二十八日県立高等女学校楼上ニ於テ神戸商業地位ニ在ル人カ小我ヲ捨テ協定シ國家ヲ安泰ニ置カレンコトヲ希望ニ堪ヘス」ト述フ）

民国建設以來十三年動亂ニ亞クニ動亂ヲ以テスルハ之民國國民カ動亂ヲ好ムカ故ニアラスシテ各列強カ此所ニ致スナリ民國ト列強トノ間ニ締結セル各種條約ハ實ニ不平等極マモノニシテ此不平等條約ニヨリ列強國民ハ支那内地ニ於テ偉大ナル勢力ヲ占メ其ノ利慾ノ為ニハ一部軍人ヲ使嗾シ又ハ不良國民ヲ煽動シテ内亂ヲ勃発セシムモノナリ此條約ヲ撤廃スルニアラサレハ到底支那ノ平和延ヒテハ世界ノ平和ハ望ムヘカラサルナリ

（此ノ時英文大阪毎日記者一矢某立チ上リ此ノ際孫先生ニ質問スヘシトテ「列強ノ支那ニ対スル條約ハ或ハ不平等ノ点モアルヘシ然レトモ其茲ニ至ルニ就テハ相當ノ犠牲ヲ払ヘリ從ツテ列強ハ素直ニ條約ヲ撤廃スヘントハ思ハレサルカ之ニ対シ孫先生ハ成算アリヤ」ト質問シタリ）

民国対列強ノ條約カ不平等ニシテ世界ノ平和ニ有害ニシテ

會議所主催大阪朝日、大阪毎日両社後援ノ講演会ニ臨ミ「大亞細亞問題」ト題シ一場ノ講演ヲ為ス模様ナリニ及申（通）報候也

記

余カ來朝ノ目的ハ政治的及其ノ他何等ノ意味ヲ有セス天津會議ニ赴ク為メ上海迄来リタルモ陸上ハ交通杜絶海路亦船室壳切レノ為貴國ヲ經由スルカ却ツテ近道ナリト考ヘタルカ故ナリ故ニ最近ノ便船アル迄当地ニ滯在シ東京ニハ赴カサル考ナリ

日支両国ハ互ヒニ提携シテ進ムノ必要アルハ双方國民ノ良ク理解セル所ナルカ其ノ方法ニ就テ余ノ意見ヲ述フルニ先チ先ツ此点ニ関スル諸君ノ意見及中國國民ニ対スル諸君ノ感想ヲ聞キタシ

（此時大阪朝日新聞記者神尾茂立チ上リ）

「余ハ一個人トシテ孫先生ニ答ヘンニ両國親善ノ方法ハ約言セハ國際的趨勢ニ鑑ミ両國ノ本質的結合ハ東亞民族ノ存立ノ為メニ必要ナル所以ヲ兩國民カ徹底的ニ理解スルニアリ尚貴國民ニ対スル感想トシテハ余ハ貴國ノ相亞ク動亂ヲ見テ最モ不可解トスルモノニシテ孫先生ヲ初メ國民指導ノ繫レルナリ云々

護上ヨリ打算シタル民國ニ在留スル一部列強國民ニ過キサルナリ既ニ世界各國ニ於テ正義人道ニ反スルモノト悟リ而シテ隣邦日本ノ同情ト援助ヲ得ルニ於テハ不平等條約ノ撤廃ハ易々タルモノナリ此点ニ關シテハ日本ハ幸ニ三十年以前不平等條約ノ如何ニ自國ヲ禍スルカニ付テノ体験者ナリ民國ニ同情シ不平等條約ノ撤廃ヲ援助スル國ハ日本ヲ措テ他ニ非ラサルナリ日本ハ其ノ對民國條約ヲ破棄スルコトニ依リテ目前ノ小利ヲ失フカ如ク考ヘラルモ決シテ然ラス両國ノ經濟的同盟ハ失フニ幾倍スル利益ヲ日本ニ齎スコトハ極メテ明白ナリ日支親善、東亞民族ノ繁榮、只此一点ニ繫レルナリ云々

第三〇六号

五五五 十一月二十六日 在廣東天羽總領事ヨリ

常原外務大臣宛（電報）

孫文ノ北上後ノ廣東ト江西トノ情勢ニソキ報

告ノ件

（十一月二十七日接受）

且ツ正義人道ニ反スルモノカトハ世界各國ノ確實ニ之ヲ認ムル所ナリ最近華府會議ニ於テ各國カ等シク之ヲ声明セルニ徵シテモ明白ナリ只之ニ反対スルハ自己ノ利益ノ擁護ニ侵入シタルモ財政其他ノ關係上此上北進スルコトハ至難

ノ状態ニアル所他方過般江西常徳盛及方本仁ハ何レモ代表ヲ以テ譚延闡ト和議ヲ交渉シ右代表ハ過日何レモ已ニ江西ニ帰レリ常徳盛ノ方ハ円満ナル諒解成立シタル趣ナルモ方度ハ極メテ平靜ニシテ左程急劇ナル時局ノ変転アリト予想シ居ラサル点ヨリ観レハ在九江領事発閣下電報第四四号及第四五号形勢ノ急変ハ主トシテ蔡成勲対方本仁ノ関係ニ依リ生シタルモノカト観測サル

委細機密公第一六四号拙信御参照ヲ請フ

公使、九江、天津、上海、奉天、漢口、福州、南京、沙市ヘ暗送セリ

五五六 十一月二十七日 在広東天羽總領事ヨリ
幣原外務大臣宛（電報）

方本仁ト蔡成勲トノ開戦及ビ之ニ對スル廣東側ノ件

第三〇七号 （十一月二十八日接受）

二十六日落合ヒタル軍需局長羅翼群ノ内話ニ拠レハ同日譚往電第三〇六号ニ閲シ

兵外発秘第二六二九号ノ六 （十二月二日外務省接受）
大正十三年十一月二十八日

兵庫県知事 平塚 広義（印）

内務大臣 若槻 礼次郎殿

五五七 十一月二十八日 平塚兵庫県知事ヨリ
幣原外務大臣他宛
報告ノ件

神戸滞在中ノ孫文ノ動靜並ビニソノ講演要旨

北京、九江へ転電シ天津、上海、奉天、漢口、福州、南京、沙市ヘ暗送セリ

延闡ハ常徳盛ヨリ方本仁ハ愈々蔡成勲ト開戦シタル為応援アリタシトノ電報ヲ受取リタル由ナル趣ニ付二十七日清水他用ヲ以テ胡漢民ヲ往訪ノ序ニ夫レトナク其辺ノ事情ヲ聞キタル處常方両人ヨリ連絡応援等ニ就キ申出アリタルハ事実ナルモ廣東側ニ於テハ種々ノ理由ニ基キ当分手ヲ出サル心算ナリトノコトナリシ由事実目下廣東側ニテハ援助ヲ為ス余裕モナキ故ニ方蔡内争ニ対シテハ依然形勢観望ノ態度ヲ持スヘキヤト観測サル

キタル處常方両人ヨリ連絡応援等ニ就キ申出アリタルハ事

外務大臣 幣原 喜重郎殿
指定府県各長官殿

孫文ノ行動（其ノ五）

神戸「オリエンタルホテル」滯在中ノ孫文ハ本日（二十八日）モ亦午前九時半ヨリ単身一室ニ在リテ訪問者ト面会セルカ午前中ノ面会者左ノ如シ

満鉄社員

渋沢子爵代理

三上合資会社

神戸道院（大本教幹部）

東京府新井宿一一〇一

医学博士

日本製油会社重役

右ノ外朝鮮人協会東京本部総務徐基俊、同会長金東赫、同副会長朴興奎（大阪市南区日本橋五丁目）、在阪朝鮮人兄弟会長李善洪（大阪市南区逢坂下之町）、三井物産船舶部梅垣長二等面会ヲ求メタルモ孫文ハ当日午後一時ヨリ神戸

商業会議所主催ノ講演会ニ出席ノ予定ナリシニ依リ孰レモ更ニ明日來訪ストテ辞去シタリ尚昨報東亞日報記者朝鮮人尹洪烈ハ二十七日午後五時頃ニ至リ漸ク五分間約リ面会シテ何事ヲカ憇フル所アリタリ

孫文ハ本日午後一時ヨリ自動車ニテホーテルヲ立出テ既報神戸商業会議所主催ノ講演会場（県立神戸高等女学校楼上）ニ臨ミ同校生徒ニ対シ約四十分間ノ講演ヲ為シタル後既ニ入口ニ詰メ掛け居タル一般聴衆ヲ収容シタルニ二千人ノ席ヲ有スル会場ハ忽チニシテ滿員トナリ通路、舞台等迄ニモ聴衆充满シ尚統々詰メ掛け居タル有様ナルニ依リ更ニ同校兩天体操場ヲ第二会場トシ約一千人ノ聴衆ヲ収容シテ漸ク整理スルコトヲ得タルニ依リ午後三時ヨリ孫文ハ先ツ第二会場ニ赴キ戴天仇ノ通訳ニテ簡単ナル挨拶ヲ為シタル後第一会場ニ臨ミ約一時間半ニ亘リ大亞細亜問題ト題シ大要左ノ如キ講演ヲ為シタルカ一句毎ニ拍手ヲ以テ迎ヘラレ相当感動ヲ与ヘタル模様ナリキ

尚屢報ノ如キ事情ニ鑑ミ本名ノ身辺ニ対シテハ適當ニ保護ヲ加ヘタルカ右講演終了後異常ナク其ノ旅宿ニ帰レリ

記

東洋ハ文化ノ發祥地ナリ世界ノ文化ハ悉ク東洋ニ其源ヲ發セサルハナシ然ルニ其後欧米ノ文化發達スルニ及ムテ東洋ハ漸次圧迫セラレ各國トモ殆ムト独立國ノ実質ナキニ至レリ今ヨリ三十年前國民ノ努力ニ依リテ日本ノミハ漸ク不平等條約ヲ撤廃シテ完全ナル獨立國タルノ實質ヲ備フルニ至リタルモ其ノ他ノ諸國ニ至リテハ孰レモ依然トシテ欧米ノ植民地タルノ域ヲ脱スル能ハサルナリ而シテ東洋民族ハ四十年前迄ハ如何ニ努力スルモ到底欧米ニ及ハストシ自ラ諦メ居タルモ日本ノ勃興ニ依リ殊ニ日露戰爭ノ大捷ニ依リテ黃色人種モ尚白皙人種ニ対抗シ之ヲ膺懲シ得ルコトヲ悟レリ當時余ハ恰モ円里ニ在リテ日本海大戰ノ報ヲ得タルカ其ノ數日ノ後巴里ヲ發シテ帰國ノ途中スエズ運河ノ船中ニテエジプト人ノ語ル所ニ依レハ東洋ノ一角ニ斯ル偉大ノ民族アリシコトハ我々東洋民族トシテ雀躍ノ至リナリ東洋民族モ尚良ク歐州人ニ対抗シ得ルヲ悟リテ之強キ限りナリトテ非常ニ満足ノ意ヲ表シ居タルヲ見タリ如斯日露戰爭ハ非常ニ偉大ナル而シテ心強キ衝動ヲ東洋民族ニ与ヘ之ヲ動機トシテ各國孰レモ獨立運動ヲ開始シ埃及、土耳其、ペル

國ト變シタル今日迄モ英國ニ心服セス尚且ツ支那ヲ祖國視シ居レルヲ見テモ如何ニ支那カ正義人道ノ國ナリシカ而シテ如何ニ正義人道的文化ノ感化力ノ偉大ナルカラ知ルヲ得ヘシ一面欧米ノ文化カ征服的武力的ニシテ全然感化力ヲ欠如セルカラ知ルヲ得ルナリ勿論我々ハ尚欧米ノ武力文化ニ学ハサルヘカラサル多クノ必要ヲ感スルモノナリ然レトモ夫レハ他國ヲ征服シ圧迫セムトスルニアラシシテ正義人道的文化ヲ確立セムカ為ナリ歐米ノ文化ヲ學ヒテ最近大ニ進歩セル國ニ東ニ日本アリ西ニ土耳古アリ土耳古ハ歐州戰爭ニ依リテ一時瓦解ノ状態ナリシモ國民ノ努力ニ依リテ遂ニ立派ナル獨立國トナレリ日本及土耳古ハ我々東洋民族ノ信賴スルニ足ル勇敢ナル番兵ナリペルシャ、シャム等ハ孰レモ兵力ヲ養成シ得ル勇敢ナル國民ナリ而シテ東洋民族ノ數ハ十二億万ニシテ世界人口ノ四分ノ三ヲ算ス欧米人ノ數ハ僅カニ其三分ノ一ニ過キサルナリ三分ノ一ノ國民カ一個ノ國民ヲ征服シ圧迫ス如何ニ正義人道ニ反スルモノナルカノ雄弁ナル証左ナリ歐米人ハ單ニ有色人ヲ圧迫スルノミナラス亦自國ノ國民ヲ

シャ皆之ニ成功シタリ印度ノ獨立運動モ亦益々旺トナレリ寔ニ喜フヘキ現象ナルカ専横ナル欧米ニ対抗スルニハ尚更ニ進ムテ東洋民族カ大同團結セサルヘカラス東洋ノ西部ニ於テハ互ヒニ提携シテ團結ノ実ヲ挙ケツツアルニ拘ラス東部ノ日支ニ於テ尚本質的提携ヲ實現スル能ハサルハ余ノ頗ル遺憾トスル所ナリ

欧米人ハ亞細亞民族ノ覺醒ヲ目シテ世界人類ニ対スル反逆ナリト言ヘリ此点ヲ力説セル著述ノ刊行セラルルヤ白色人間ニ争ツテ之ヲ購読セラルル事實ヲ見テ余ハ東洋民族ヲ被征服的地位ニ置カムトスルハ白皙人種ノ個性ナルコトヲ知レリ

欧米文化ノ大ニ進歩セルコトハ余ト雖モ之ヲ認ム然レトモ其文化ハ物質的且武力的ナリ之ニ反シ東洋ノ文化ハ精神的道徳的ナリ今ヨリ二千年以前ヨリ五百年以前迄ハ支那ハ實ニ世界ノ最大強國ナリシナリ而シテ其ノ屬國モ亦尠カラサリシカ而モ其所ニ至レル原因ハ決シテ武力的征服的ニ属セシメタルモノニアラスシテ各國カ支那ノ文化ヲ慕フノ余り自ラ來服シタルモノナリ其ノ実例トシテ當時ノ屬國タリン「ネパル」國カ其後英國ノ植民的地位ニ立チ支那ハ最モ弱

圧迫シ而シテ同人種中正義人道的ニ覺醒スル國アラハ他ハ團結シテ之ヲ圧迫スルナリ其例ハ實ニ彼ノ露西亞ナリ露西亞國民ハ物質的武力的文化ノ誤ナリシヲ覺リ翻然正義人道ニ赴クヤ彼等ハ有ユル手法手段ニ依リテ之ヲ圧迫シソアルナリ我々東洋民族ハ互ヒニ一致團結シテ此ノ專恣横暴ナル欧米人種ニ対抗セサルヘカラサルナリ云々

五五八 十二月一日 在広東天羽總領事ヨリ
商團代表陳廉伯ノ引渡方胡漢民ヨリ領事団ニ
請求ノ件

第三〇八号 (十二月二日接受)

往電第二七一号第二項ニ關シ胡漢民ハ最近沙面香上銀行内ニ帰リ来レル陳廉伯ノ引渡シヲ英國總領事ニ要求シ同總領事ハ陳廉伯ヨリ政治的運動ヲ為ササル保障ヲ取リ居レリトテ之ヲ拒絶シ日下交渉中ノ由ナル処二十四日他用來館シタル胡漢民及伍朝枢ハ領事団ニ於テ之ニ対シ何等措置ヲ執ラレ度旨依頼アリタルニ付本官ハ右ハ單ニ英國ト支那官憲トノ關係ニ止マル旨ヲ申聞ケ置キシカ一十八日胡省長ヨリ公

文ヲ以テ首席領事トシテノ本官ニ対シ同様ノ請求アリタル
故右ハ特ニ英國總領事ノ考慮ニ付シタル旨回答シタリ孫文

上海上陸問題以来国民党ノ租界回収及所謂不平等條約撤廃
運動益々熾烈ナルヲ見ル

在支公使ヘ転電シ上海へ暗送セリ

五五九 十二月四日 在天津吉田總領事ヨリ
幣原外務大臣宛（電報）

五六〇 十二月四日 在廣東天羽總領事ヨリ
幣原外務大臣宛

孫文ノ北上ニ関スル新聞論説報ノ件

付属書 右ニ関スル同日付廣州民国日報記事訳文

公第二〇九号

大正十三年十二月四日

在廣東

（十一月二十日接受）

孫文一行ノ天津到着ト出迎ノ情況及ビ国民党

支部員ノ宣伝文撒布ニ関スル件

第二七九号

孫文出迎ノ為一昨日以来孫科初メ許世英、吳光新、葉恭
綽、張繼、盧永祥、臧致平、王正廷等続々下津セル處孫文

ハ夫人、戴天仇、李烈鈞外六名及山田、井上両顧問同伴北
嶺丸ニテ四日正午天津着、日本租界張園ニ入りタリ埠頭ニ
出迎ヘタル各団体約三千五百名国民党支部其他四、五ノ團
体ハ途中自動車ニテ我党ノ主義実現セサルハ帝政ノ余孽袁
世凱乃至曹、吳及現存各派ノ軍閥アルニ由ル政權ヲ再ヒ軍
閥ニ渡ス勿レトノ意味ノ各種ノ宣伝片ヲ撒布セリ

在支公使、奉天、上海、漢口、杭州、南京、香港ニ転電セ

（付属書）

十二月四日付廣州民国日報記事訳文

孫氏北上ノ真意義ト今後我党ノ執ル可キ方針

（十二月四日廣州民国日報）

先月ノ北京政變ニ因ル軍閥曹錕ノ潰走ハ國ヲ禍スル軍閥ノ
一部勢力ヲ挫キ反革命勢力ノ前途ニ少カラス頓挫ヲ來サシ
メ且我党ノ進行ニ最好ノ機会ヲ齎シタルモノテアルカラ凡
ソ党人タルモノハ銳意今後ノ変化ニ留意シ我党進行ノ態度
ヲ定ムヘキテアル

孫總理北上ニ際シ少数ノ党員及党外ノ無識者ハ總理ノ北上
ヲ誹議シタ、彼等党員ハ孫氏ノ北上ハ親ラ虎穴ニ入ルモノ
テアリ北方ノ野心軍人ノ真意如何ハ到底窺知シ難イカラ北
京局面カ斯ク紛乱セル時ニ於テ總理カ輕々シク乗リ出スコ
トハ不可テアルト言ヒ党外ノ無識者ニ至テハ常ニ外人ニ迎
合シ軍閥ニ媚ヒ只帝国主義的勢力ノ伯ル可キヲ知ツテ国民
革命ニ進行ニ努力ス可キコトヲ知ラナイ、故ニ彼等ハ帝国
主義者、軍閥等ノ奴隸トナツテ飯ヲ食ツテ行ク為ニ孫氏カ
革命ニ努力スルコトヲ希望シナイ、然シ有識者ハ總理今回
ノ北行カ絶大ノ意義アルコトヲ知ツテ居ル、北京ハ軍閥カ

孫文北上ニ関スル新聞論説報ノ件

本月四日廣東政府機関紙廣州民国日報掲載「孫氏北上ノ真
意義ト今後我党ノ取ルヘキ方針」ト題スル論説ハ孫文北上
並ニ現下ノ時局ニ對スル一部国民党ノ主張並ニ当地民党幹
部ノ段祺瑞、張作霖、馮玉祥等ニ對スル態度ヲ知ルニ御參
考トモ存候ニ付右要訳及報告候間御查閱相成度此段申進候

本信写送付先 在支公使

敬具

外務大臣男爵 币原 喜重郎殿

總領事 天羽 英二（印）

画テアル

然シ茲ニ或ハ同志ヲシテ疑惑ヲ抱カシムルカモ知レヌモノ
カアル即チ近日北京ノ局面ニ発生スル急激ナル変化ハ真ニ

日ニ異ル有様テ軍閥復興シ政権ヲ把持スルノ局勢ハ已ニ掩
フヘカラサル景像トナツテ居ル、近日段祺瑞カ執政ニ任シ
テ以来ノ施設、馮玉祥ノ下野宣告及ヒ張作霖入閔ノ報道等
ハ何レモ皆軍閥復興ノ兆候ヲ現ハシタモノテアル故ニ我等
同志ハ孫氏北上ノ成否ニ対シ疑問ヲ發生セルモ這ハ或ハ當
然ノ情勢カモ知レナイ、我等ハ同志ニ此ノ疑惑ヲ去ランコ
トヲ請フ、我等ハ夙ニ今回北京政變ノ結果カ斯クナル可キ
ヲ知ソテ居タ、凡ソ國民革命ノ仕事ハ全民衆ノ一齊ニ努力
セネハナラヌモノテ断シテ二三軍閥カ芝居のニ相互ニ驅逐
シ合ツテ成功シ得ルモノテハナイ、孫氏ハ革命ノ領袖トシ
テノ責任及仕事ヲ尽シ軍閥ノ勢力圏内ニ宣伝セムカ為毅然
トシテ北上シタノテアル、孫氏カ「此行ハ國民ノ資格ヲ以
テ國是解決ニ参与セムカ為ニシテ断シテ政権ニ有リ付ク心
アルニ非ス」ト言ツタノハ孫氏北上ノ真ノ目的ヲ吐露シタ
モノテアルカ孫氏ハ北上ノ機會ニ於テ兼テ北方ノ同志ニ接
シテ之ヲ励マシ並ニ革命ノ手段ヲ教示セムトスルノテア

トは國是解决ニ参与セムカ為ニシテ断シテ政権ニ有リ付ク心

アルニ非ス」ト言ツタノハ孫氏北上ノ真ノ目的ヲ吐露シタ

モノテアルカ孫氏ハ北上ノ機會ニ於テ兼テ北方ノ同志ニ接

シテ之ヲ励マシ並ニ革命ノ手段ヲ教示セムトスルノテア

ル、孫氏ハ已ニ日本カラ天津ニ赴カントン無数ノ革命弾ハ
久シク沈醉シテ居タ北方ニ爆發セントシテ居ル此時ノ形勢
コソ重大テアツテ特ニ注意ヲ要スルモノテアル

一般民衆ハ皆孫總理ノ北上ニ熱狂シテ歓迎会ヲ組織シ革命
ノ先覺ヲ歓迎シ其指導ヲ求メテ居ルカ我等ハ特ニ執政者ト
軍閥トノ運動ニ注意セネハナラナイ、段祺瑞執政長ニ就任
以來其施政ハ已ニ大二人意ニ満タナイモノカアルカラ我等
カ彼ト協力合作シ得ルヤ否ヤハ一問題ナアリ且我等ハ特ニ

彼ノ新直隸系ノ發生ヲ予防セナケレハナラナイ馮玉祥氏ノ
辞職ニ就テハ有識者ハ夙ニ彼カ新勢力ノ圧迫ニ堪ヘナイ為
必ス来ル可キモノナルコトヲ知ソテ居タ、先日ノ特電ニ
「吳佩孚ハ段祺瑞ニ対シ服従ヲ希望スル旨電報シタノテ段
ハ胡景翼ニ前進停止ヲ命シタ」トアルハ実ニ失敗シタ軍閥
ヲ纏メテ新直隸系ヲ組織スル準備テアル

是ニ於テ我等ハ

(一)努力シテ北方軍閥治下ノ地内ニ入リテ宣伝シ
(二)段、張、馮等ノ一切ノ施政ニ対シテハ終始其誤謬ヲ糾正
シ少シモ妥協セサルコト

(三)我等革命政府ノ軍事行動ニ対スル方針トシテハ即刻全力

ヲ集中シテ南方六省ヲ平定シ我等ノ勢力ヲ鞏固ニスルコ
トト

ニ向ツテ進行シ革命目的ノ達成ニ努力セナケレハナラナイ
云々

五六一 十二月五日 在中国芳沢公使ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

孫文ノ歓迎準備熱狂的ナル旨並ビニコレヲ釀
成セル原因ニツキ報告ノ件

第一二四二号

四日着津ノ孫文ハ七日入京スヘシト伝ヘラレ居ル処右ニ関
シ昨今民党系及学校其他各团体ノ歓迎準備ハ殆ド熱狂的ニ
シテ現ニ之等諸团体ノ代表約百五十名三日専用車ヲ仕立出
迎ノ為メ天津ニ赴キ又同日中央公園ニ開カレタル歓迎準備
連合大会ニテハ(孫ノ着京当日学生其他ノ团体一齊ニ天安
門ニ出迎ヘ前門迄旗行列ヲ為スコト)其翌晚国立八校其他
ノ学生ヲ中心トシ一般市民ヲ加ヘタル一大提灯行列ヲ行フ
コト(右両日トモ行列行進ノ際歓迎ノ標語ヲ合唱シ又歓迎
ノ伝單ヲ撒布スルコト等ヲ決議シタル趣ニテ尚孫着京ノ上
北京大学其他ニテ三民五(族?)主義ノ大講演会ヲ開クヘ

奉天、天津、上海、廣東へ転電セリ

五六二 十二月五日 在天津吉田總領事ヨリ
幣原外務大臣宛（電報）

天津ニ於ケル孫文ノ歓迎会開催ニ關シ報告ノ

件

第二八四号

当地各界連合ノ孫文歓迎会ハ四日午後八時仏租界国民飯店ニテ催サル予定ナリシカ当日撒布サレタル諸單中ニハ不平等条約反対租界回収等ノ文句アリタル為仏租界警察ハ国民飯店ニ開会ヲ許サナル旨申渡サレタルニ依リ交渉員警察府員ヨリ折衝ヲ重ネタルモ終ニ拒絕サレ楊以徳自ラ仏警察ニ赴キ楊自身ノ招待トスルコトニ諒解ヲ遂ケ八時半漸ク開会シタルモ孫ハ病氣ノ故ヲ以テ出席セス汪精衛ヲ代表トシテ列席セシメタリ

北京へ転電セリ

五六三 十二月十一日 在広東天羽總領事ヨリ
幣原外務大臣宛（電報）

廣東北伐軍ノ江西、湖南ヘノ進入ニ關シ申進

ノ件

第三一二号

（十二月十三日接受）

第三一三号

（十二月十七日接受）

過般來当地新聞ハ連日国民會議即開ヲ主張スル各種団体ノ

宣言又ハ通電ヲ掲ケテ居ルカ其要旨ハ

一、元老督軍等一部権力者ヨリ成ル善後會議ヲ開カス速ニ

孫文ノ主張スル国民會議ヲ召集シテ國事ヲ議シ

二、国民會議ヲ軍閥政客等ノ壟斷ニ委スルコトナク真ニ國

民ヲ代表スル各種団体ヲ以テ組織スヘク

三、孫文ノ主張ニ從ヒ国民會議開催前先ツ予備會議ヲ開キ

国民會議ノ基礎条件ヲ討議スヘン

ト謂フノテアル

公使、天津ニ転電済ミ奉天、上海、漢口ニ暗送

平塚兵庫県知事ヨリ
幣原外務大臣他宛

阪神各団体ノ歓迎会ニ於ケル孫文ノ演説二閑

スル件

兵外発秘第一六九三号ノ三 （十二月十九日外務省接受）

大正十三年十二月十七日

兵庫県知事 平塚 広義（印）

記

（第一）

中山先生、阪神各団体ノ歓迎会ニ對スル演説
(原漢文)

最近江西政局ノ動搖ニ連レ広東北伐軍ハ江西省常徳盛ト策応北進ヲ開始シ十二月八日南康ヲ占領シ九日其先發李鳴鐘及朱培德軍（李烈鈞派）贛州ニ入リタリトノ報アリ譚延闡自身モ湖南軍最後ノ部隊ト共ニ韶關ヨリ北進シ日下極力金策中ノ處他方十一日天津井上謙吉ヨリ本官宛ニ李烈鈞ハ孫文ノ内命ト各方面ノ希望トニ依リ近日江西ニ帰ルヘキ旨電報アリ樊鐘秀河南軍ハ曩ニ方本仁軍ニ破ラレタル際其部隊中断セラレ其一部ハ其儘北進シ（九江領事發閣下宛電報第四六号参照）本部ハ目下江西、廣東省境ニ在リ之亦北進セムトス江西政局益動搖ノ兆アリ湖南方面ニ向ヒタル程潛湖南軍ハ一旦宣章ヲ占領シタルモ間モ無ク退却シテ目下坪石ニ在リ湖南進入ノ準備中ナルモ其兵數モ多カラサレハ此方面ハ大ナル進展六ヶ敷カル可シ

在支公使、九江へ転電シ天津、上海、奉天、漢口、福州、南京へ暗送セリ

五六四 十二月十六日 在広東天羽總領事ヨリ
幣原外務大臣宛（電報）

廣東ノ新聞ハ連日国民會議即開ヲ主張スル各

種団体ノ宣言、通電ヲ掲載ノ件

諸君

本夕ハ諸君ノ斯クモ熱誠ナル御招待ニ預リ私ハ感慨無量テアリマス、私ハ今回神戸ニ立チ寄リ日本ノ各方面人士ノ一歎熱誠ナル歓迎ヲ蒙リマシタカスノ如キ偶然ノ事情ニ依リテモ中日両国民ノ親善ノ必要ヲ知ルコトカ出来マス、支那ト日本ノ関係ニ付テ言ハ何事ニ依ラス両国民ハ万事提携協力シテ進行シ共ニ前途ノ發展ヲ圖ルヘキテアリマス、譬フレハ私ノ今回ノ北上ハ南支ヨリ北支ニ行ク即チ自家ノ南方カラ自家ノ北方へ行クニモ尚日本ヲ通過セネハナラヌノテアリマス、即チ交通ノ一事ニ就テ言フモ日支両国ハ斯クモ密接ナル関係カアルノテアリマス、其ノ他種々ノ関係ニ於テモ亦頗ル密接テアル、吾等両国民ハ從来口頭テハ中国ト日本トハ同種同文ノ國家テアル、兄弟ノ國テアル、両国民ハ將ニ提携スヘキテアルト申シマス、以前日本ノ維新ノ元老ハ維新ノ未タ成功シナイ時ニ於テ既ニ中日両国提携ノ必要ヲ提唱シテ居ル現在日本ノ維新ハ既ニ成功シタカ而モ日支両国民ノ口頭禪ハ尚未タ目的ヲ達スルコトカ出来ナイノテアリマス、此ノ原因ハ何所ニアリマセウカ、思フニ我中國ハ以前ハ只睡眠シテ居ツタノテアリマス、其ノ間ニ日

本維新ハ幾十年ヲ経過シタ、而モ中國ハ依然トシテ睡リヲ続ケテ居ツタノテ毫モ其ノ経過ヲ知ラナカツタノテアリマス、中国ハ尚睡眠シテ之ヲ知ラナカツタノテアル、十三年前ニ至リ初メテ中國ニ革命カ起ツタ、少數先覚者カ政治ノ改良、國民ノ覺醒、國家ノ地位恢復ヲ提倡シ以前ノ状態ニ復セシメントシタカラテアル

此ノ次ノ革命ノ時期ハ日本ノ維新ノ時機ト甚タ異ツテ居ル、日本ノ維新ノ當時ハ欧美ノ勢力未タ充分ニ東來セス又東亜ニ在リテモ他ニ障害ナク日本カ軍備ヲ整ヘ政治ヲ刷新スルニ当リ何等制肘ヲ受ケス頗ル自由テアツタノテアル、故ニ日本ノ維新ハ完全ニ成功スルヲ得タノテアリマス、然ルニ我中國十三年前ノ革命ニ際シテハ欧美ノ大勢力已ニ東亜ニ侵入シテ中國ノ四隅皆強国テアリ四隅亦凡テ障礙テアシタ、一事ヲ為サントスレハ即チ種々ノ困難ニ遭遇セネハナラヌ、而シテ其ノ困難ヲ経過シタル後ト雖モ尚目的ヲ達スルコトハ出来ナイノテアリマス、故ニ十三年ヲ経過シタ今日テモ尚成功ヲ収ムルコトカ出来ナイノテアリマス、吾

人革命党ハ中國ニ在リテ此ノ拾数年来ニ於テ已ニ滿清ノ旧皇帝ヲ顛覆シ袁世凱ノ新皇帝ヲ銷滅シ、種々ノ障碍ヲ掃除シタ最近曹吳ノ大軍閥亦吾等ノ顛覆スル所トナツタ、斯クノ如ク國內ニ於ケル革命ニ對スル障碍ハ凡テ吾人ノ為メニ銷滅シ我等ノ國內ニ於テハ革命ノ障碍ハ悉ク無クナツタノテアリマス、既ニ障碍ナシトル以上ハ即チ將ニ革命ハ成功スヘキテアル、然ルニ何カ故ニ未タ成功シ得ナイテアラウカ、何カ故ニ未タ充分ニ目的ヲ達スルコトカ出来ヌテアラウカ、即チ尚国外ノ障碍カアリ而シテ之等国外ノ障碍ヲ打破シ得ナイカ故テアリマス、換言スレハ中國カ外國ト締結セル不平等ノ條約カアル、條約ナル文字ヨリ言ハハ明白ナリト雖モ其ノ内容ニ至リテハ中國人自身スラ不明白ナルノミナラス傍観者ナル日本人ニモ恐ラクハ明白テナイノテアリマス、其ノ条約ノ由來ヲ略述スレハ以前中國カ十六ヶ國ト訂立シタカ諸外國カ中國ニ於テ定メタル條約ハ中國ヲ不平等ノ地位ニ置キ中國ヲ圧迫シテ種々特別ノ権利ヲ享有スルモノノテアリマス

今次ノ歐州戦争ノ後独塊両国ハ此種ノ條約ヲ廢除シタ、此両国ハ現ニ支那ニ於テハ特別ノ権利ヲ享有シナイノテアリ

ナラヌ、彼等植民地ノ人民ハ母國ニ対シテ多大ノ権利ヲ享有スルノテアリマス、然ルニ吾中國ハ十三ヶ國ノ植民地テアツテ彼等十三ヶ國ハ只中國ニ在リテ特別ノ権利ヲ有シ中國人ヲ虐待シテ毫モ義務ヲ尽サナイノテアリマス、故ニ我國人ハ他人ノ奴隸トナツテ毫モ主人ノ恩恵ヲ蒙ラス只虐待セラレ苦痛ヲ受クルノミナノテアリマス、国内ニ於テ行クヘキ安住ノ所ナキカ故ニ外國ニ去リテ一国ノ奴隸トナル廣東人カ香港ニ到リ、遠ク南洋群島ニ走リ更ニ南北アメリカニ到ルハ好適例テアリマス、彼等多数ノ者カ国内ニ去ルヤ皆郷里ニ帰ルコトヲ想ハナイ、自然ニ一国ノ奴隸タルハ十數国ノ奴隸タルニ比シテ遙ニ愉快ヲ覺ユルノテアリマス我領土ハ米國ヨリモ大テアリ我人民ハ四億ヲ算シテ米國ヨリハ遙ニ多い、米國ハ現在世界中最最高最強ノ國家テアリマスカ我中國ハ斯ノ如キ大領土トスノ如キ多民族ヲ擁シナカラ尚ツノ独立國家タルヲ得ナイノテアリマス其ノ主要ナル原因ハ前述ノ如ク不平等条約ノ圧迫ヲ受クルカラテアリマス、吾人ハ今ヤ十三ヶ國ノ植民地テアルノニ支那人自身サヘモ尚之ヲ知ラナイ、我ノ信スル所テハ日本人モ亦之ヲ知ラナイ、日本ハ現在東亞最強ノ獨立國テアツテ世界列強

ノ一テアル、若シ日本ニシテ真ニ中國カ十三ヶ國ノ植民地ナルヲ知ルナラハ一独立國カ來リテ植民地ト親善セムトスルカ如キハ不可能ノコトテアル、此道理ヲ明カニスルニ就テ自分ニ一方法カアル

我廣東ニ昔甲乙兩人ノ朋友カアツタ甲ハ廣東人テ廣東ニ於テ勢力モアリ地位モアリ一個ノ紳士ト称スヘキ人テ乙ハ田舎ノ世僕テアツテ未タ奴隸ノ地位ヲ脱セサル人テアツタカ後廣州ニ来リ商売ヲシテ大ニ儲ケテ多大ノ勢力ヲ有スルニ至ツタルニ友人ノ紹介テ甲ヲ識リ甲ト友人ニナツタ或日甲カ乙ヲ招待シテ飯ヲ食ヒニ行ツタ兩人ハ揚々威張ツテ料理屋ヘ出カケタ所カ二人カ得意然トシテ歩イテ居る途中突然乙ノ主人ニ出会シタ、其乙ノ主人ト言フノハ田舎者テ田舎カラ街ヘ出テ来タハカリノ所トテ、別ニ好イ衣服モ着ケテ居ナイ、靴モ穿ツテ居ナイ、只一本ノ傘ヲ持ツテ居ルハカリテアリマンシタ、大分遠方カラ歩イテ来タコトテ大変疲レテ居タ、突然乙ニ遇ツタカ乙ハ彼ノ世僕テアツタカ故ニ遠慮モセス、早速久シク見ナカツタカトウシテ斯ク贅沢ニナツタカ、今日ハ斯ンナニオメカシヲシテ何所ヘ行クカ、自分ハ歩イテ大変疲レタカラ此傘ヲ代ツテ持ツテクレ

ト言ツタ、乙ハ其ノ田舎者ノ世僕タツタカラ断リ兼ネ主人ニ代ツテ傘ヲ持チ一緒ニ歩イタ其ノ為メニ甲乙ハ食事ヲ共ニスルコトカ出来ナイ

我中國カ世界各国ト数多ノ利益ヲ与ヘル様ナ条約ヲ結ムテ居ルノニ日本自身ハ尚中國ノ主人タルコトヲ覺ラスシテ日々中日親善ヲ唱ヘルトスレハ之レハ甲カ友人乙ヲ招待シテ食事ニ行クト同シク路上突然乙ノ主人ニ遭ヒ、主人カ乙ニ傘ヲ持タセル、從ツテ甲ハ当然乙ト一緒ニ食事ニ行クコトカ出来ナイノテアリマス、支那ハ現在一個ノ世僕テアル、而モ一人ノ主人テナク十數人ノ主人カアル、日本カ我等ト親善ヲ望ムテ我等ヲ招待シテ食事ヲ共ニセウト思ツテモ日支兩國カ一緒ニ歩イテ居テ第一ノ主人ニ遭ハストモ第二ノ主人ニ遭ヒ第三ノ主人ニ遭ハストモ第四ノ主人ニ遭フ、斯クテ十數人ノ主人ニ至ルノテアリマス、多クノ主人カアレハ遭フ機会カ常ニアル、中國カ一度其レ等ノ主人ニ遭ヘハ主人等ハ必ラス傘ヲ持タセル、斯クテハ日本カ如何

(中國国民党支部主催ノ歓迎会席上演説録ハ追報ス)